SEIKO

ASTRON

GPS

SOLAR

► 最初にお読みください

► 目　次

ユーザーガイド完全版

Complete User Guide

7X52　GPSソーラーウオッチ

目次

この度は弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。ご使用の前にこの説明書をよくお読みの上、正しくご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、この説明書のDVD-ROMはお手元に保管し、必要に応じてご覧ください。

※ 金属バンドの調整は、お買い上げ店にご依頼ください。
ご贈答、ご転居などにより、お買い上げ店での調整が受けられない場合は、
弊社お客様相談窓口へご依頼ください。お買い上げ店以外では有料もしくは
お取扱いいただけない場合があります。

※ 商品に傷防止用の保護シールが貼られている場合があります。
必ずはがしてお使いください。貼られたままにしておくと、汚れ、汗、ゴミ、
水分などが付着してさび発生の原因となります。

製品取扱上のご注意

⚠警告

取り扱いを誤った場合に、重症を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示します。

・次のような場合、ご使用を中止してください

○時計本体やバンドが腐食などにより鋭利になった場合

○バンドのピンが飛び出してきた場合

※ すぐに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご連絡ください。

・乳幼児の手の届くところに、時計本体や部品を置かないでください

部品を乳幼児が飲み込んでしまうおそれがあります。
万が一飲み込んだ場合は、身体に害があるため、ただちに医師にご相談ください。

・時計から二次電池を取り出さないでください

※ 二次電池について → 使用電源について P.40
二次電池の交換には専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
一般の酸化銀電池が組み込まれると、破裂・発熱・発火などのおそれがあります。

⚠注意

取り扱いを誤った場合に、軽症を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示します。

・以下の場所での携帯・保管は避けてください

○揮発性の薬品が発散しているところ(除光液などの化粧品、防虫剤、シンナーなど)
○5℃～35℃から外れる温度に長期間なるところ　○高湿度なところ
○磁気や静電気の影響があるところ　○ホコリの多いところ
○強い振動のあるところ

・アレルギーやかぶれを起こした場合

ただちに時計の使用をやめ、皮膚科など専門医にご相談ください。

・その他のご注意

○金属バンドの調整は専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
手や指などにけがをする可能性があるほか、部品を紛失する可能性があります。
○商品の分解・改造はしないでください。
○乳幼児に時計が触れないようにご注意ください。
けがやアレルギーをひき起こすおそれがあります。
○使用済み電池の処理は自治体の指示に従ってください。
○提げ時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンの取り扱いにご注意ください。
衣類や手・首などを傷つけたり、首を締めたりするおそれがあります。

⚠警告

この時計はスキューバダイビングや飽和潜水には絶対に使用しないでください

スキューバダイビングや飽和潜水用の時計に必要とされる過酷な環境を想定した様々な厳しい検査を行っていません。
専用のダイバーズウオッチをご使用ください。

⚠注意

直接蛇口から水をかけることは避けてください

水道水は非常に水圧が高く、日常生活用強化防水の時計でも防水不良になるおそれがあります。

⚠注意

水分のついたまま、りゅうずやボタンを操作しないでください

時計内部に水分が入ることがあります。

※ 万が一、ガラス内面にくもりや水滴が発生し、長時間消えない場合は防水不良です。
お早めに、お買い上げ店・弊社お客様相談窓口にご相談ください。

水や汗、汚れが付着したままにしておくのは避けてください

防水時計でもガラスの接着面・パッキンの劣化やステンレスがさびることにより、防水不良になるおそれがあります。

入浴やサウナの際はご使用を避けてください

蒸気や石けん、温泉の成分などが防水性能の劣化を早めることがあります。

特長

■ この時計は、GPSソーラー*ウオッチです。

次のような特長があります。

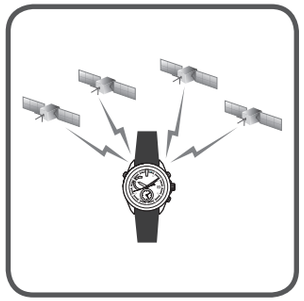
＊GPSとは、Global Positioning System（全地球測位システム）の略です。
→詳しくは P.27

世界中どこでも、ボタン操作ひとつで現在地の正しい時刻に合わせることができます。

GPS衛星からの電波を受信し、すばやく時刻を合わせます。
→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.13

世界の全39のタイムゾーンに対応しています。
→タイムゾーンについて P.28

時計を使う地域、タイムゾーンが変わったときは「タイムゾーン修正」の操作を行ってください。
→ タイムゾーン修正のしかた P.14～16

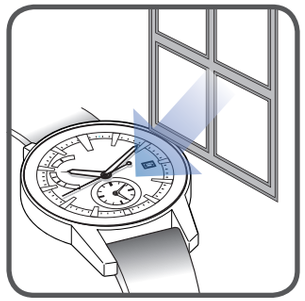


ソーラー充電で動きます。

文字板に光を当てて充電してください。
フル充電で約6ヶ月間動きます。

エネルギー残量がなくなったとき、フル充電にするには時間がかかるため、こまめに充電をするように心がけてください

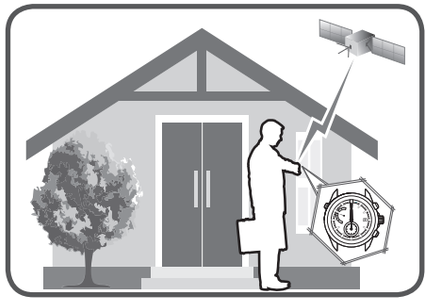
→ 充電のしかた P.11
→ 充電にかかる時間のめやす P.11



ご使用時の行動パターンに合わせて、自動で時刻修正を行います。

外出時に明るい太陽光を感知したとき等は、自動でGPS衛星の電波を受信します。ご使用中にもお客様が意識することなく、常に正しい時刻に合わせられる機能です。
→ 自動時刻修正について P.23

※充電量が不足しているときは受信を行いません。
→ エネルギー残量を確認する P.10



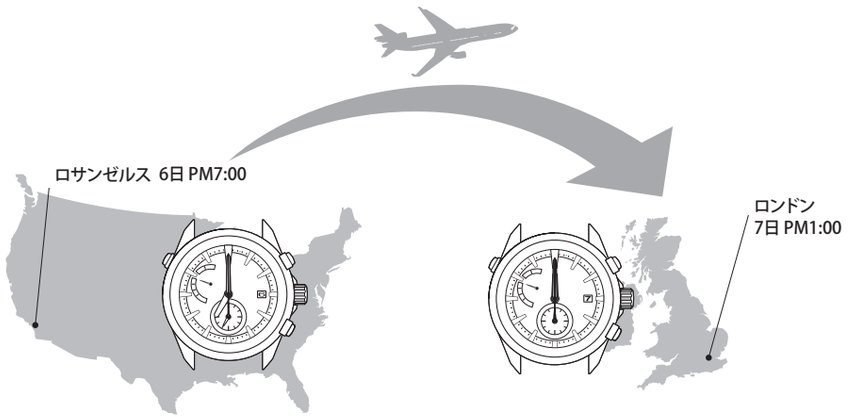
※このGPSソーラーウオッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常にGPS衛星の電波を受信する仕様ではありません。
GPS衛星の電波の受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。

このような使いかたがあります

時計を使う地域、タイムゾーンが変わったとき

タイムゾーン修正を行ってください。
今いる地域の正確な時刻を表示します。

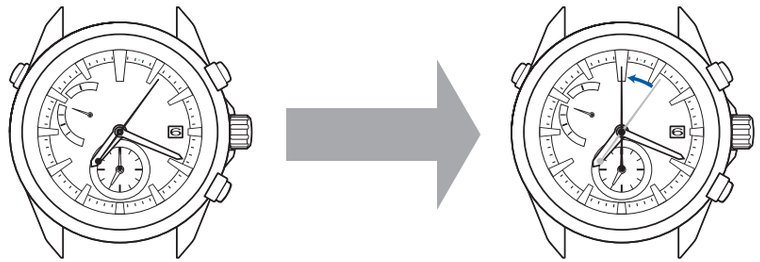
→ タイムゾーン修正　P.14～16
→ タイムゾーンについて　P.28
→ タイムゾーン表示と時差一覧　P.9



時刻のみを合わせたいとき

「強制時刻修正」の操作をすることで設定されている
タイムゾーンの正確な時刻を表示します。

→ 強制時刻修正のしかた　P.21～22
→ タイムゾーンの設定を確認する　P.16



目　次

1．最初にお読みください …… 2

2．目次 …… 6

3．ご使用の前に …… 7
- 各部の名称 …… 7
- インジケータ針の表示、受信結果表示について …… 8
- タイムゾーン表示と時差一覧 …… 9
- エネルギー残量を確認する …… 10
- 充電について …… 11

4．基本操作（時刻の合わせかた／受信のしかた等） …… 12
- 基本操作フロー …… 12
- 受信しやすい場所・受信できない場所 …… 13
- タイムゾーン修正（時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときは） …… 14
- タイムゾーンの設定を確認する …… 16
- サマータイム（DST）の設定をする …… 18
- 機内モード（✈）について（飛行機に乗るとき） …… 19
- 手動タイムゾーン選択（飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき） …… 20
- 強制時刻修正（時刻のみを合わせたいとき） …… 21
- 自動時刻修正について …… 23
- 受信結果表示について（受信ができているか確認する） …… 24
- デュアルタイム表示について …… 25
- 小時計の合わせかた …… 26

5．詳細情報 …… 27
- 時刻・日付を合わせるしくみ …… 27
- タイムゾーンについて …… 28
- GPS電波受信について …… 29
- うるう秒について（うるう秒自動受信機能） …… 30

6．秒針の動きが変だなと思ったら …… 31
- エネルギー切れ予告機能（秒針の動きと時計の状態） …… 31

7．ご注意いただきたいこと …… 33
- お手入れについて …… 33
- 性能と型式について …… 33
- ねじロック式りゅうずについて …… 34
- 防水性能について …… 35
- 耐磁性能について（磁気の影響） …… 36
- バンドについて …… 37
- 三つ折れ式中留（なかどめ）の使いかた …… 38
- ルミブライトについて …… 39
- 使用電源について …… 40
- アフターサービスについて …… 41

8．困ったときは …… 42
- GPS電波の受信ができないとき …… 42
- 時刻・日付、インジケータ針の位置がずれているとき …… 45
- 万が一、異常な動きになったとき（システムリセットをする） …… 48
- こんなときは …… 51

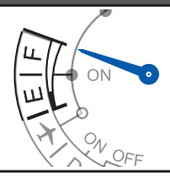
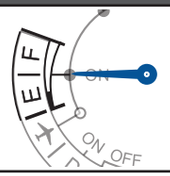
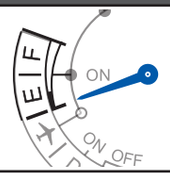
9．機能一覧／製品仕様 …… 56

各部の名称

次のページに続く

インジケータ針の表示、受信結果表示について

エネルギー残量の表示

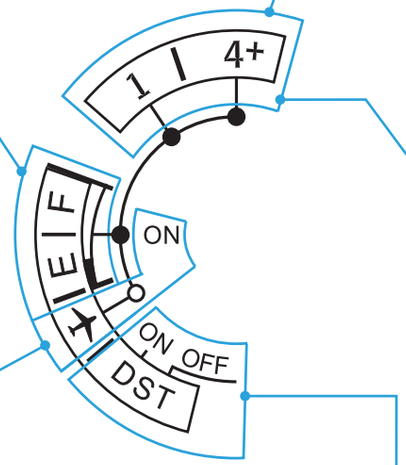
針の位置	F （十分）	水平位置（中くらい）	E （少ない）
表　示			

エネルギー残量を確認する → P.10
充電のしかた → P.11

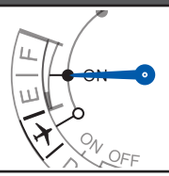
受信方法の表示

受信の方法	1（時刻修正）	4+（タイムゾーン修正）	うるう秒情報受信
表 示			

受信結果の確認 → P.24
強制時刻修正 → P.21～22
タイムゾーン修正 → P.14～16
自動時刻修正 → P.23
うるう秒情報受信 → P.30



機内モードの表示

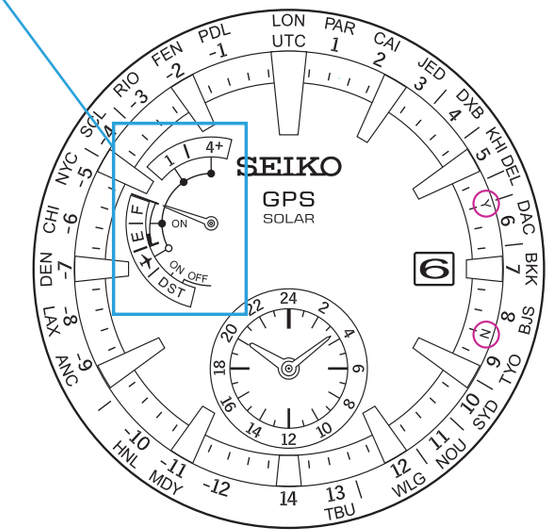
針の位置	機内モード(✈)状態	機内モード(✈)解除 ※ 機内モードの設定中のみ表示します。
表　示		

機内モード(✈)について → P.19

サマータイム（DST）表示

針の位置	ON	OFF
表　示		

サマータイム(DST)の確認 → P.17
サマータイム(DST)の設定 → P.18



受信結果表示

Y … 受信成功
（12 秒位置）

N … 受信失敗
（18 秒位置）

【受信結果の確認】→ P.24

※ 各表示の位置は、モデル（デザイン）によって異なる場合があります。

次のページに続く

タイムゾーン表示と時差一覧

ベゼルやダイヤルリングなどの表示とUTCからの時差の関係を表しています。
手動タイムゾーン選択やタイムゾーンの設定を確認するときに以下の秒針位置を参考にしてください。
各地域のタイムゾーンについては2012年1月現在のものです。

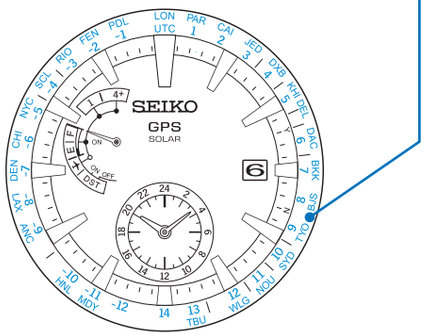
★印の地域ではサマータイム(DST)が導入されています。
☆オーストラリア領のロード・ハウ島ではサマータイム実施時、30分時刻を進めています。この時計はロード・ハウ島のサマータイムに対応しています。

タイムゾーン表示

代表都市名‥‥ 世界の全39の
タイムゾーンのうちの
26都市

時差‥‥‥‥‥‥ +14〜−12時間

【タイムゾーンの確認】→ P.16
【タイムゾーン修正】→ P.14 〜 15



都市表示	秒針位置	代表都市名（タイムゾーン）	UTCからの時 差
UTC/LON	0秒	★ロンドン/UTC	0時間
PAR	2秒	★パリ/★ベルリン	+1時間
CAI	4秒	★カイロ	+2時間
JED	6秒	ジッダ	+3時間
–	7秒	★テヘラン	+3.5時間
DXB	8秒	ドバイ	+4時間
–	9秒	カブール	+4.5時間
KHI	10秒	カラチ	+5時間
DEL	11秒	デリー	+5.5時間
–	12秒	カトマンズ	+5.75時間
DAC	13秒	ダッカ	+6時間
–	14秒	ヤンゴン	+6.5時間
BKK	15秒	バンコク	+7時間

都市表示	秒針位置	代表都市名（タイムゾーン）	UTCからの時 差
BJS	17秒	北京	+8時間
TYO	19秒	東京	+9時間
–	20秒	★アデレード	+9.5時間
SYD	21秒	★シドニー	10時間
–	22秒	☆ロード・ハウ島	+10.5時間
NOU	23秒	ヌーメア	+11時間
–	24秒	ノーフォーク島	+11.5時間
WLG	25秒	★ウェリントン	+12時間
–	27秒	チャタム諸島	+12.75時間
TBU	28秒	ヌクアロファ	+13時間
–	30秒	キリスィマスィ島	+14時間
–	33秒	ベーカー島	−12時間
MDY	35秒	ミッドウェー島	−11時間

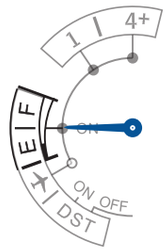
都市表示	秒針位置	代表都市名（タイムゾーン）	UTCからの時 差
HNL	37秒	ホノルル	−10時間
–	39秒	マルケサス諸島	−9.5時間
ANC	41秒	★アンカレッジ	−9時間
LAX	43秒	★ロサンゼルス	−8時間
DEN	45秒	★デンバー	−7時間
CHI	47秒	★シカゴ	−6時間
NYC	49秒	★ニューヨーク	−5時間
–	50秒	カラカス	−4.5時間
SCL	51秒	★サンティアゴ	−4時間
–	52秒	★セント・ジョンズ	−3.5時間
RIO	53秒	★リオデジャネイロ	−3時間
FEN	55秒	フェルナンド・デ・ノローニャ諸島	−2時間
PDL	57秒	★アゾレス諸島	−1時間

エネルギー残量を確認する

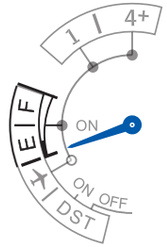
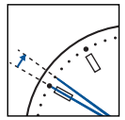
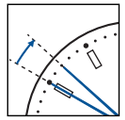
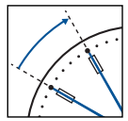
インジケータ針の位置で、この時計が受信ができる状態か確認できます。
また、エネルギーが少ない状態については、秒針の動きによって、より詳しくエネルギー不足の程度を確認することができます。

※GPS電波受信を行うには、たくさんのエネルギーが必要です。こまめに光を当て、充電することを心がけてください。 →充電について P.11

受信できる状態

インジケータ表示	エネルギー残量	このようにしてください
	F（十分）	受信できる状態です。 →P.12に進む
	水平位置 （中くらい）	受信できますが、充電を心がけてください。 →充電について P.11

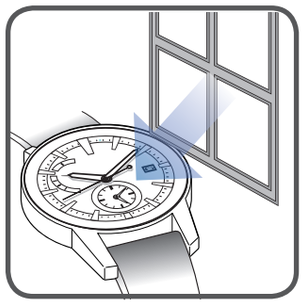
受信できない状態

インジケータ表示	秒針の動き	エネルギー残量		このようにしてください
	1秒運針 	E （少ない）	受信はできませんが、時計を動かすエネルギーはあります。	受信ができるように、少なくともインジケータ針が水平位置になるまで充電をしてください。 →充電について P.11
	2秒運針 		受信ができない上に、時計を動かすエネルギーも不足しています。（エネルギー切れ予告機能が働いています →P.31）	時計を動かし続けられ、かつ、受信ができるように、少なくともインジケータ針が水平位置になるまで充電を継続してください。 →充電について P.11
	5秒運針 			
	—	機内モード(✈)のため、エネルギー残量は表示されません。		機内モード(✈)を解除できる環境であれば、機内モード(✈)を解除してください。 →機内モード(✈)状態を解除する P.19 インジケータ針が"E"を指している場合には、上記に従って充電を行ってください。

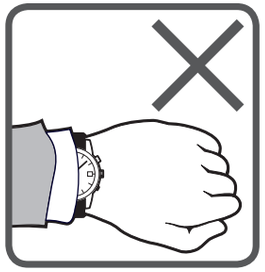
充電について

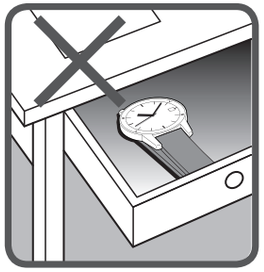
充電のしかた

文字板に光をあてて充電してください。



快適にご使用いただくために、
十分な充電をすることを心がけましょう。





以下の状況では充電不足によりエネルギーが切れ、
時計が止まる可能性が高くなります。
・時計が衣類の袖の中に隠れている
・光のあたりにくい環境での使用や保管が続く

※充電の際は、時計が高温にならないように注意し、強い日光に長時間当てることは避けてください。
（作動温度範囲は－10℃～＋60℃です。）

※使いはじめ、または充電不足で停止していた時計を駆動させるときは、右の表をめやすに十分な充電を行ってください。

充電にかかる時間のめやす

以下の時間をめやすに、充電を行ってください。

GPS電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。こまめに光を当て、インジケータ針が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるように充電することを心がけてください。（エネルギー残量が「E（少ない）」になると、GPS電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）

→この時計が受信できる状態か確認する（エネルギー残量確認） P.10

照 度 lx（ルクス）	光 源	環 境（めやす）	時計が止まっている（充電されていない）状態から		運針している（充電されている）状態で
			フル充電まで	確実に1秒運針になるまで	1日ぶん動かすには
700	蛍光灯	一般オフィス内	－	－	6.5時間
3000	蛍光灯	30W 20cm	530時間	32時間	1.4時間
1万	太陽光 蛍光灯	くもり 30W　5cm	135時間	5時間	22分
10万	太陽光	快晴（夏の直射日光下）	65時間	1.5時間	6分

「確実に1秒運針になるまで」の数値は、止まっていた時計に光をあてて、確実に１秒運針になるまでに必要な充電時間のめやすです。この時間まで充電しなくても１秒運針になりますが、その状態ではすぐに２秒運針になることがあります。この時間をめやすに充電してください。

※ 充電に必要な時間は、モデルによって若干異なります。

基本操作フロー

・時計を使う地域、タイムゾーンが変わったとき

・時刻のみを合わせたいとき

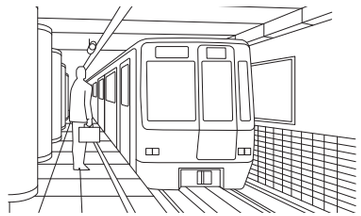
1.GPS電波が受信しやすい場所か確認する

→受信しやすい場所･受信できない場所　P.13

GPS電波が受信しやすい環境にいる

空が見えて、視界が広い屋外

GPS電波が受信できない環境にいる



例. 地下鉄構内

2.タイムゾーンの設定、時刻･日付を合わせる

＜GPS電波受信による設定＞

・電波を受信してタイムゾーンの設定、時刻・日付を合わせる	→ タイムゾーン修正のしかた　P.14～16
・必要に応じてサマータイム（DST）の設定をする	→ サマータイム（DST）設定のしかた　P.17～18

時刻のみを合わせる	→ 強制時刻修正のしかた　P.21～22

＜手動による設定＞

→ タイムゾーンの設定を確認する　P.16

タイムゾーンの設定が合っていない	→ 手動タイムゾーン選択のしかた　P.20
タイムゾーンの設定が合っている	→ 手動時刻･日付合わせのしかた　P.42～44

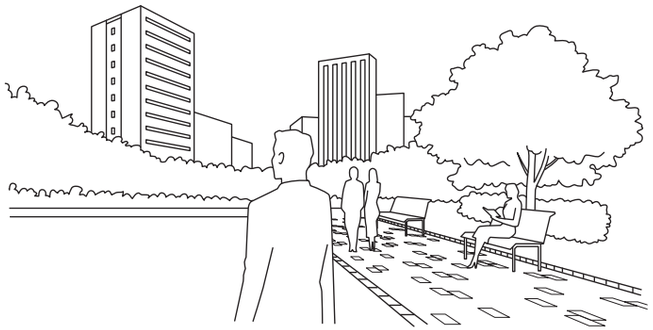
目次

■ 受信しやすい場所・受信できない場所

GPS電波を受信しやすい場所と受信できない場所があります。

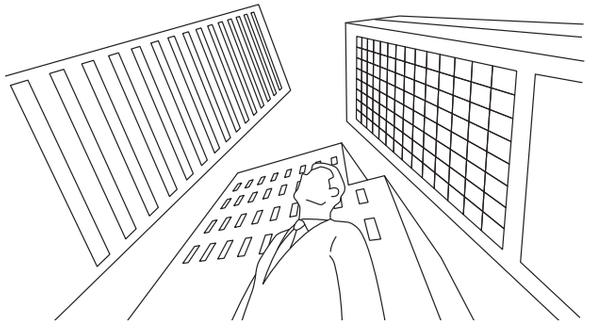
○ 受信しやすい

・空が見えて、視界が広い屋外



△ 受信しにくい

・空が見える範囲が狭くなるほど受信しにくくなります。
また、受信中（特にタイムゾーン修正を行うとき）に電波をさえぎるものがある場合も受信しにくくなります。

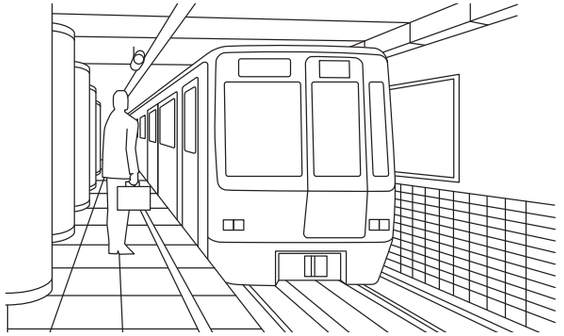


例
- ・ビルの谷間
- ・木々の近く
- ・駅・空港
- ・窓のある屋内

※窓ガラスの種類によっては受信ができません。「×受信できない」を確認してください。

× 受信できない

・空が見えない、一部しか見えない
・受信をさまたげるものがある



例
- ・窓のない屋内
- ・地下
- ・トンネル通過中
- ・熱放射遮断効果等のある特殊ガラス越し
- ・ノイズを発する機器、無線通信を行う機器の近く

目次

時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときは（タイムゾーン修正）

タイムゾーン修正について

GPS電波を受信することで、今いる場所のタイムゾーンを特定し、
正確な現在時刻に合わせます。
ボタン操作ひとつで、いつでも任意に現在地の時刻に合わせることができます。
→ タイムゾーン修正のしかた　P.15

※受信の成否は受信環境によって左右されます。→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.13
※受信に成功しても、サマータイム（DST）は自動では設定されません。手動で設定を行なってください。
→ サマータイム（DST）を設定する　P.17～18
※GPS電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。
こまめに光を当て、インジケータ針が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるように充電をすることを心がけてください。　→充電のしかた　P.11
（エネルギー残量が「E（少ない）」になると、GPS電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）
→エネルギー残量確認　P.10

タイムゾーン修正に関する注意事項

タイムゾーンの境界線付近でタイムゾーン修正を行うと、隣接するタイムゾーンの時刻が表示されることがあります。
これはしくみ上起こりうることで、故障ではありません。
その場合には手動タイムゾーン選択でタイムゾーンの設定をしてください。
→ 手動タイムゾーン選択のしかた　P.20

陸路の移動途中でタイムゾーン修正を行う際はタイムゾーン境界付近を避け、出来るだけそのタイムゾーンの代表的な都市で行うようにしてください。
また、タイムゾーン境界線付近で使用するときは、必ずタイムゾーンの設定を確認し、必要に応じて手動でタイムゾーンの設定を行ってください。

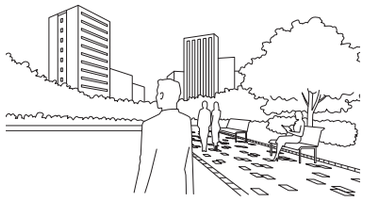
次のページに続く

目次

タイムゾーン修正のしかた

1 受信しやすい場所へ行く

空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。

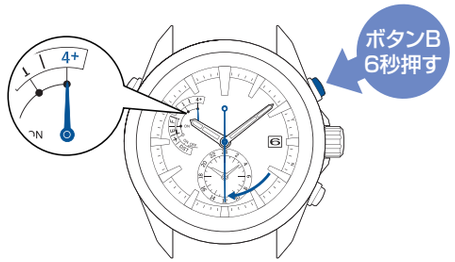


→ 受信しやすい場所・受信できない場所 P.13

2 ボタンBを押し続けて（6秒）秒針が30秒位置に移動したら離す

※ ボタンBを押して3秒後に秒針は0秒位置に移動しますが、そのまま押し続けてください。

秒針が30秒位置に移動して受信がはじまります。
インジケータ針は「4+」を指します。



※ インジケータ針がEまたは ✈ を指しているときは受信の操作をしても受信がはじまりません。
「E」を指しているときは、光をあてて充電してください。
→充電のしかた P.11
この時計が受信できる状態か確認する
→エネルギー残量の確認 P.10
✈を指しているときは、機内モード（✈）を解除してください
→機内モード（✈）の解除のしかた P.19

3 時計を真上に向けたまま待つ

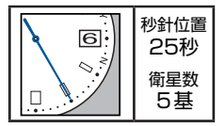
※ 移動中は受信しにくくなる可能性がありますのでご注意ください。

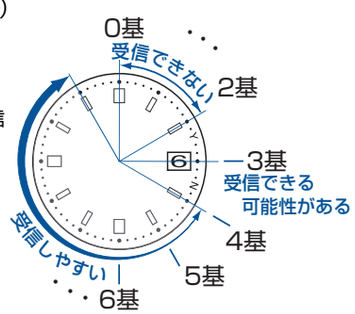
受信終了までにかかる時間は、最長2分です。

※受信の状況によります。

<受信中の表示（捕捉衛星数）>
秒針が受信のしやすさ
（受信中のGPS衛星の数）
を示します。

※捕足衛星数が多いほど、受信しやすい状態です。



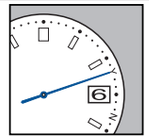
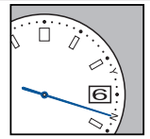


※ 表示が4基以上を示していても、受信できない場合があります。

※ 受信をキャンセルさせるときは、ボタンAを押してください。

4 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

受信結果が5秒間表示されます。
その後、時分針が動き、時刻・日付が合います。
（タイムゾーンの設定も今いる場所になります。）

受信結果表示	Y:成功	N:失敗
表　示		
状　況	そのままお使いください。	→ 受信結果が「N」になったときは P.42

時刻表示に戻ったあとに受信ができたか確認する
→ 受信ができているか確認する P.24
→ タイムゾーンの設定を確認する P.16

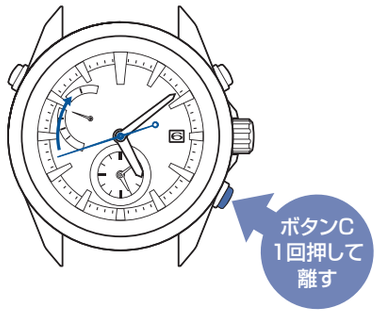
※ 日付が動いている間は、ボタン・りゅうずの操作はできません。
※ サマータイム(DST)の設定は手動で行ってください。
→サマータイム(DST)を設定する P.17～18

目次

タイムゾーンの設定を確認する

現在設定されているタイムゾーンを５秒間表示します。

1 ボタンＣを１回押して離す

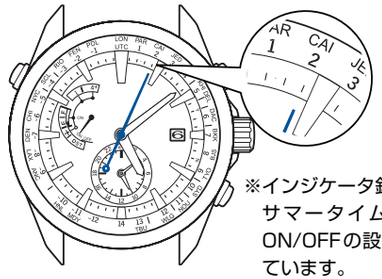


※ボタンＣを押し続けると手動タイムゾーン選択の動作に入ります。

2 タイムゾーンの設定を確認する（５秒以内）

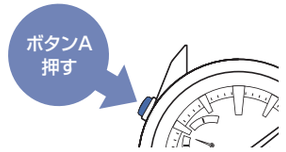
秒針が現在設定されているタイムゾーンの設定を示します。

【例】タイムゾーン の設定：+2時間　CAIRO（カイロ）



※インジケータ針の表示は、サマータイム（DST）のON/OFFの設定を表示しています。

※５秒経過、またはボタンＡを押すと時刻表示に戻ります。



※ タイムゾーンの設定を変更したいとき

・電波が受信しやすい場所（P.13）にいるとき
→ タイムゾーン修正のしかた　P.14～15

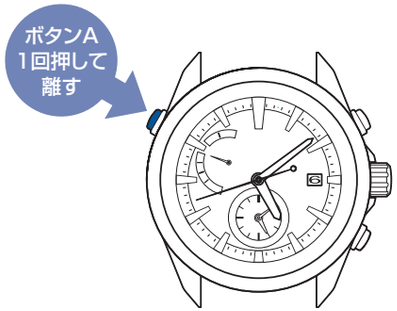
・電波が受信できない場所にいるとき
→ 手動タイムゾーン選択のしかた　P.20

※ 秒針の位置とタイムゾーンの関係については「タイムゾーン表示と時差一覧　P.9」を確認してください。

サマータイム（DST）の設定を確認する

サマータイム（DST）の設定を約５秒間表示します。

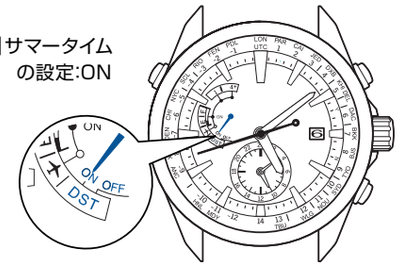
1 ボタンＡを１回押して離す



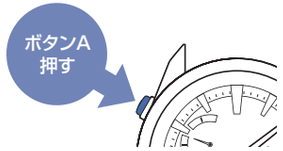
2 サマータイム（DST）の設定を確認する（５秒以内）

インジケータ針がサマータイム（DST）の設定を示します。

【例】サマータイムの設定:ON



※約５秒経過またはボタンＡを押すと時刻表示に戻ります。



サマータイム（DST）について

地域によっては個別に【サマータイム（DST）】が設定されています。
サマータイムとは、夏時間のことです。
夏の日照時間の長いときに、時刻を通常１時間進めて昼間の時間を長くする制度です。
欧米を中心に世界の約80ヶ国で実施されています。
サマータイム（DST）の実施期間は、実施地域や国によって様々です。

※各地域のサマータイム(DST)は、国または地域の都合により変更される場合があります。

サマータイム（DST）
Daylight Saving Time＝ デイライト セイビングタイム

→ サマータイム（DST）の設定をする　P.18

サマータイム（DST）の設定をする

サマータイム（DST）の設定をONにする

手動でサマータイム（DST）を設定することができます。
①の操作後、約５秒以内に②の操作を始めてください。

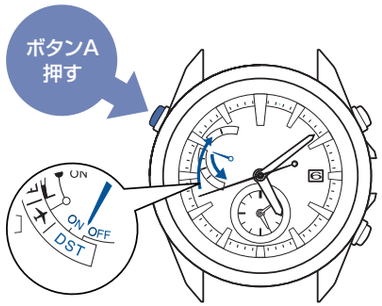
※サマータイム（DST）の設定は自動では変わりません。
※タイムゾーン修正・手動タイムゾーン選択を行っても
自動ではDSTのON/OFFは切りかわりません。
サマータイムを実施している地域から実施していない地域に行くときは、DSTをOFFにしてください。

※①の状態が、約５秒以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。時刻表示に戻ったときは、①から操作をやりなおしてください。

1 ボタンAを押す

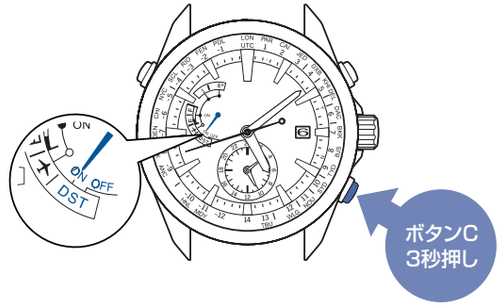
インジケータ針が動いて、現在のサマータイム（DST）の設定を表示します。

＜サマータイム（DST）の設定がOFFの状態＞



2 ①の操作後、約５秒以内に、ボタンCを押し続ける（３秒）

インジケータ針が動いて「ON」を指し、時分針が１時間分進みます。



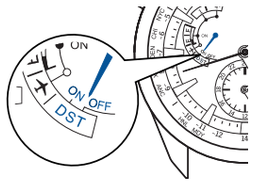
3 時分針の動きが止まると約５秒後に自動的にDST設定モードが終了

時刻表示に戻ります。
インジケータ針は、エネルギー残量表示に戻ります。

※インジケータ針の位置によって、時刻表示に戻る時間は変わります。
※時分針の動きが止まってから、５秒以内にボタンAを押しても時刻表示に戻ります。

サマータイム（DST）の設定をOFFにする

サマータイム（DST）の設定がONの状態のとき①～③の操作を行ってください。
②の操作ではインジケータ針を右図の位置「OFF」に合わせてください。
時分針が１時間分戻ります。



目次

飛行機に乗るとき（機内モード✈について）

機内モード（✈）について

飛行機内など他の電子機器の動作に影響を与える可能性がある場所では、機内モード（✈）状態にしてください。
機内モード（✈）状態にすると、GPS電波受信（タイムゾーン修正・強制時刻修正、自動時刻修正）がはたらかないようになります。

＜機内モード（✈）状態＞
インジケータ針が ✈ を指している

※機内モード（✈）が解除されると、インジケータ針はエネルギー残量を示します。

機内モード（✈）状態にする

①の操作後、約５秒以内に②の操作を始めてください。

※①の操作後、約５秒以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。時刻表示に戻ったときは、①から操作をやりなおしてください。

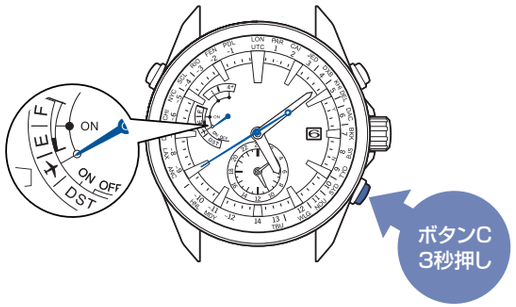
1 ボタンBを押して、離す

秒針は受信結果（Y、N）を表示し、インジケータ針は受信の方法（1または4+）を指します。

2 ①の操作後、約５秒以内に、ボタンCを押し続ける（3秒）

秒針が40秒位置に停止して、インジケータ針が ✈ を指します。

＜機内モード（✈）状態＞
インジケータ針が ✈ を指している



3 ５秒後に自動的に機内モード（✈）の設定が終了

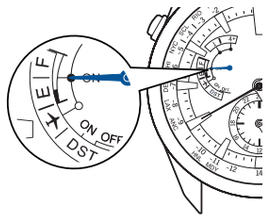
時刻表示に戻ります。

機内モード（✈）状態になると、時刻表示に戻ってもインジケータ針は ✈ を示します。

→ 飛行機内などで目的地の時刻を合わせたいとき（手動タイムゾーン選択） P.20

機内モード（✈）状態を解除する

飛行機から降りた場合など機内モードを解除してください。
解除しないとＧＰＳ衛星受信が行えません。
①～③の操作を行ってください。
②で、インジケータ針の位置が右図の位置「●ON」を指すと、機内モード（✈）の状態の解除ができます。



目次

飛行機内などで目的地の時刻に合わせたいとき（手動タイムゾーン選択）

■ 手動タイムゾーン選択について

タイムゾーン修正ができない場所では、手動でタイムゾーンを設定できます。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.13

「タイムゾーン表示と時差一覧 P.9」をめやすに、タイムゾーンを設定することで、その場所の時刻・日付に合わせることができます。

※ サマータイム（DST）の設定は「 サマータイム（DST）を設定する　P.17 ～ 18」で行ってください。

■ 手動タイムゾーン選択のしかた

1 ボタンCを押し続けて（3秒）秒針が停止したら離す

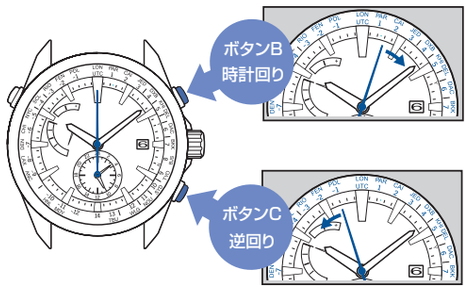
秒針が動いて、現在設定されているタイムゾーンを表示します。

※押す時間が短いとタイムゾーンの設定を確認する動作（P.16）に入りますので、確実に3秒間押してください。

2 ボタンBまたはボタンCを押して、秒針を目的地のタイムゾーンに合わせる

ボタンを１回押すと秒針が動き、となりのタイムゾーンに移動します。

※秒針の位置とタイムゾーンの関係については、「タイムゾーン表示と時差一覧　P.9」をご確認ください。



＜インジケータ針の表示＞
サマータイム（DST）のON/OFFの設定を表示しています。

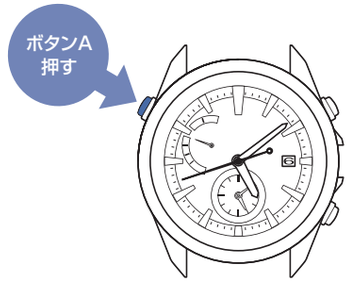
DST	ON	OFF
表 示		

※サマータイム（DST）の設定が合っていないときは、③の操作が終わったら、「サマータイム（DST）を設定するP.17～18」でON/OFFを切り替えてください。

3 時分針の動きが止まったらボタンAを押す

秒針が動きはじめます。

※日付が動いている間は、ボタン・りゅうずの操作はできません。



※針が動いていない状態が１分以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。

目次

時刻のみを合わせたいとき（強制時刻修正）

■ 強制時刻修正について

設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻に合わせることができます。
（タイムゾーンの変更は行いません。）
→ 強制時刻修正のしかた　P.22
→ タイムゾーンの設定を確認する　P.16

※強制時刻修正では、設定されているタイムゾーンの正確な時刻を表示します。
時計を使う地域・タイムゾーンが変わったときはタイムゾーン修正をしてください。→ タイムゾーン修正のしかた　P.14～16
（タイムゾーン修正を行うとタイムゾーンの設定と時刻・日付が合うため、直後に強制時刻修正をする必要はありません。）
※サマータイムは自動では設定されません。手動で設定を行なってください。→ サマータイム（DST）を設定する　P.17～18
※受信の成否は受信環境によって左右されます。→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.13
※強制時刻修正を行い受信に成功した時刻は自動時刻修正を行う時刻となることがあります。詳しくは「自動時刻修正について　P.23＜光に当たりにくいときは＞」をご確認ください。
※GPS電波受信を行うと、たくさんのエネルギーを消費します。
こまめに光を当て、インジケータ針が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるように充電をすることを心がけてください。→ 充電のしかた　P.11
（エネルギー残量が「E（少ない）」になると、GPS電波受信の操作をしても受信がはじまりません。）→ この時計が受信できる状態か確認する（エネルギー残量確認）　P.10

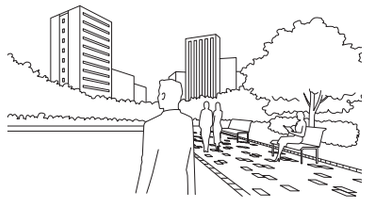
次のページに続く

目次

■ 強制時刻修正のしかた

1 受信しやすい場所へ行く

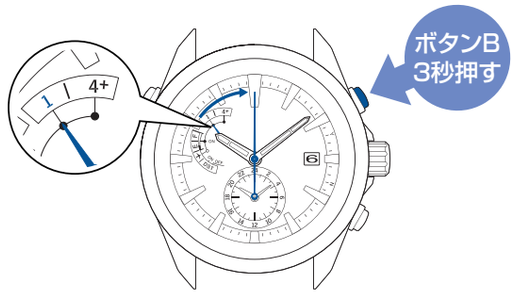
空が見えて視界が広い屋外などへ移動します。



→ 受信しやすい場所･受信できない場所 P.13

2 ボタンBを押し続けて（3秒）秒針が0秒位置に移動したら離す

秒針が0秒位置に移動して受信がはじまります。
インジケータ針は「1」を指します。



※ インジケータ針がEまたは ✈ を指しているときは受信の操作をしても受信がはじまりません。
「E」を指しているときは、光をあてて充電をしてください。
→充電のしかた P.11
→エネルギー残量を確認する P.10
✈を指しているときは、機内モード（✈）を解除してください。
→ 機内モード（✈）の解除のしかた P.19

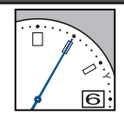
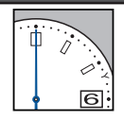
3 時計を真上に向けたまま待つ

受信にかかる時間は、最長1分です。

※受信時間は受信の状況によります。

<受信中の表示（捕捉衛星数）>
秒針が受信のしやすさ（受信中のGPS衛星の数）を示します。

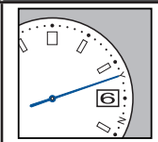
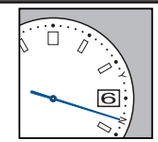
※ 時刻情報のみを取得するため、受信に必要な衛星の数は1基です。

捕捉衛星数	1基	0基
表　示		
状　況	受信しやすい	受信できない

※ 受信をキャンセルさせるときは、ボタンAを押してください。

4 秒針が「Y」または「N」を指したら、受信終了

受信結果が5秒間表示されます。
その後、時分針が動き、時刻・日付が合います。

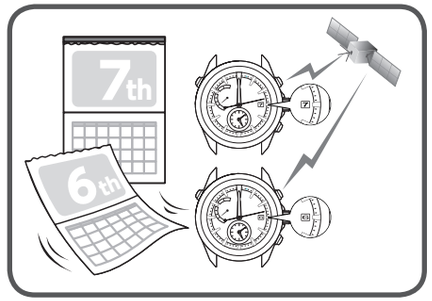
受信結果表示	Y:成功	N:失敗
表　示		
状　況	そのままお使いください。	→ 受信結果が「N」になったときは P.42

時刻表示に戻ったあとに受信ができたか確認する
→ 受信ができているか確認する P.24

「Y」と表示されても時刻が合わないときは、タイムゾーンの設定が今いる場所と合っていない可能性があります。タイムゾーンの設定を確認してください。
→タイムゾーンの設定をする P.14～16

※ 日付が動いている間は、ボタン・りゅうずの操作はできません。
※ サマータイム（DST）の設定は手動で行ってください。
→サマータイム（DST）の設定をする P.17～18

自動時刻修正について



空が開けた屋外に出たときに明るい光が当たることで、自動的にGPS電波を受信して時刻修正を行い、正確な現在時刻に合わせることができます。
また、空が開けた屋外でも、上着等に時計が隠れて文字板に光が当たらない場合には、前回強制時刻修正（またはタイムゾーン修正）が成功した時刻を時計が記憶していて、同時刻に自動で時刻修正を行います。

※空が見えない場所では、GPS電波を受信できません。→受信しやすい場所・受信できない場所　P.13
※エネルギーが十分にある状態であれば、毎日自動時刻修正を行います。
※自動受信は１日に最大１回です。このため、自動時刻修正に失敗しても、次の自動時刻修正は翌日以降になります。

受信中は強制時刻修正と同じ針の動きになります。　→強制時刻修正のしかた　P.21～22

※自動時刻修正では、タイムゾーンの修正は行いません。
　時計を使う地域が変わったときはタイムゾーン修正を行ってください　→タイムゾーン修正のしかた　P.14～16

＜充分な光が当たりにくいときは＞
空が開けた屋外でも、冬期など衣服に（時計が）隠れる時期や、日照時間が短い地域、天候などにより光に当たりにくい時間が続いたときは、最後に強制時刻修正が成功した時刻に自動時刻受信を行うようになっています。
上記のような使用環境が続く場合には、日ごろ、空が開けた受信しやすい場所にいることが多い時間帯に強制時刻修正を成功させておくと、自動時刻修正が成功しやすくなります。
　→強制時刻修正のしかた　P.22

ただし、下記の条件も考慮して自動時刻修正をはじめるか判断しているため、光が当たることで必ず自動時刻修正をはじめるということではありません。
・エネルギーの残量
・これまでの受信状況

※インジケータ針の位置が「E（充電なし）」、機内モード（✈）のときは自動時刻修正がはたらきません。
　「E」を指しているときは、光をあてて充電してください。　→充電のしかた　P.11
　→この時計が受信できる状態か確認する（エネルギー残量確認）　P.10
※エネルギーが少なくなると、自動時刻修正を行わない間隔が長くなります。こまめな充電を心がけてください。
※自動時刻修正がはじまる前にタイムゾーン修正または強制時刻修正を行うとその日は自動時刻修正を行いません。

目次

受信ができているか確認する（受信結果表示について）

最後にGPS電波受信を行ったときの、受信の種類と受信した結果（成否）を５秒間表示します。

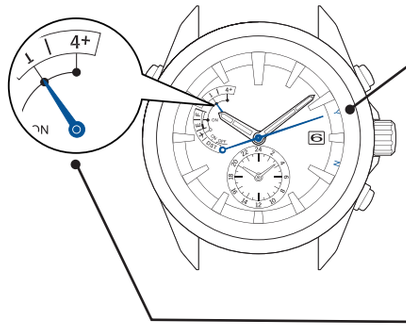
1 ボタンBを１回押して、離す

秒針とインジケータ針が受信結果を表示します。

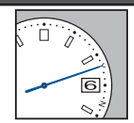
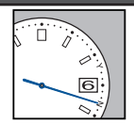
※ボタンBを押し続けると、強制時刻修正の動作に入ります。

2 受信ができているか確認する（５秒以内）

秒針が受信結果（成否）を示します。
インジケータ針は最後のGPS電波受信が時刻修正・タイムゾーン修正のどちらだったかを示します。

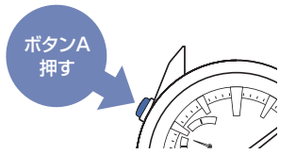


秒針：受信結果（成否）

結 果	成功	失敗
表 示		
位 置	**Y** 12秒位置	**N** 18秒位置

インジケータ針：
受信方法（強制時刻修正またはタイムゾーン修正）

種 類	1（強制時刻修正）	4+(タイムゾーン修正)
表 示		



※５秒経過、またはボタンAを押すと時刻表示に戻ります。

※インジケータ針の位置によって、時刻表示に戻る時間は変わります。

受信結果がYになったときは

- 受信ができています。
  そのままお使いください。

受信結果がNになったときは

- 受信ができていません。
  必要に応じて屋外などの、GPS電波が受信しやすい場所で受信させてください。

→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.13

※受信に成功してから約5日経過すると、受信結果表示は「N」になります。
※GPS電波受信ができない状態でもクオーツの精度（月差±15秒）で動いています。

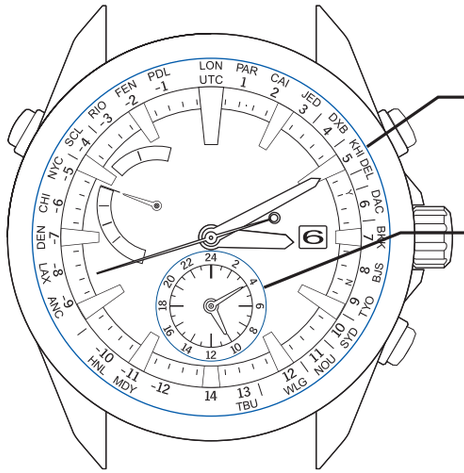
どうしても受信がうまくいかないときは、手動で時刻・日付を合わせてください。

→ 手動時刻合わせのしかた　P.43
→ 手動日付合わせのしかた　P.44

デュアルタイム表示について

基本時計と小時計で、２つの地域の時刻を表示することができます。

例：基本時計にホノルルの時刻、小時計に日本の時刻を表示する



基本時計：ローカルタイム（ホノルル）

ホノルル時間（UTC −10時間）：15時10分42秒
日付:6日

小時計：ホームタイム（日本）

日本時間（UTC +9時間）：10時10分（24時間表示）

→ 小時計合わせのしかた P.26

次のページに続く

小時計の合わせかた

・小時計は、24時間制で時刻を表示します。

・基本時計のタイムゾーンを変更しても、小時計の時刻は変わりません。

基本時計とは独立して動いています。

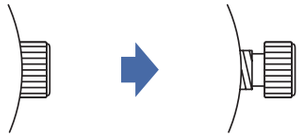
1 りゅうずのロックをはずす

りゅうずのロックをはずす。

りゅうずを左（下方向）に回してください。
ねじが緩んで、りゅうずが操作できるようになります。

ゆるめる

ロックされた状態　　ロックをはずした状態

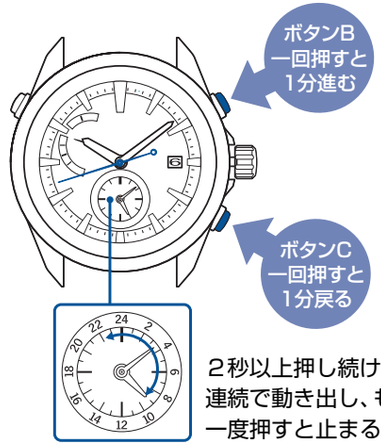


→ねじロック式りゅうず　P.34

2 りゅうずを１段引く

小時計の時刻合わせのモードに入ります。
（基本時計と小時計は動いたままです。）

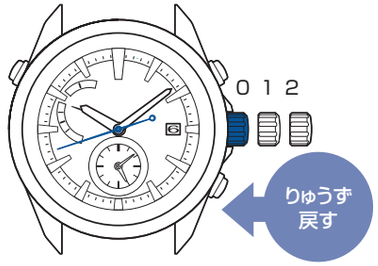
3 ボタンBまたはボタンCを押して時刻を合わせる



２秒以上押し続けると
連続で動き出し、もう
一度押すと止まる

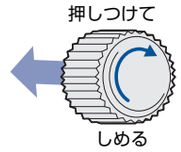
4 りゅうずを押し戻す

操作は完了です。



※りゅうずをロックしてください

りゅうずを時計本体に軽く押しつけながら右（上方向）に止まるところまで回してください。

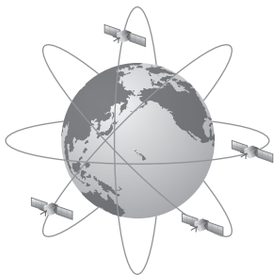


GPSウオッチが時刻・日付を合わせるしくみ

GPSとは

Global Positioning System（全地球測位システム）の略で、地球上の現在位置を調べるための衛星測位システムの一種です。
24基の衛星で地球をカバーでき、現在30基程のGPS衛星により運用されています。
世界中どこにいても、基本4基以上のGPS衛星からの情報により、その位置を測定（測位）することができます。

GPS衛星について

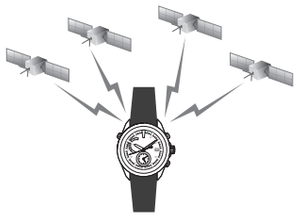


米国国防総省が管理する衛星（正式名称はNAVSTAR）で、高度約2万kmの軌道上を回っています。
本来は軍事目的の衛星でしたが、現在は情報の一部が民生用に開放されていて、カーナビゲーション、携帯電話等多くの機器で利用されています。
GPS衛星には、誤差10万年に1秒という高精度の原子時計が搭載されています。

この時計が時刻・日付を合わせるしくみ

この時計ではGPS衛星からの電波を受信し、以下の情報をもとに時刻・日付を合わせます。

・原子時計に基づく正確な時刻・日付情報
・今いる場所のタイムゾーンの情報
（基本4基以上のGPS衛星より、今いる場所を測位し、世界の全39タイムゾーンのどこにいるかを特定します。）



※今いる場所のタイムゾーンの情報を受信するには、タイムゾーン修正の操作をする必要があります。→タイムゾーン修正のしかた　P.14～16

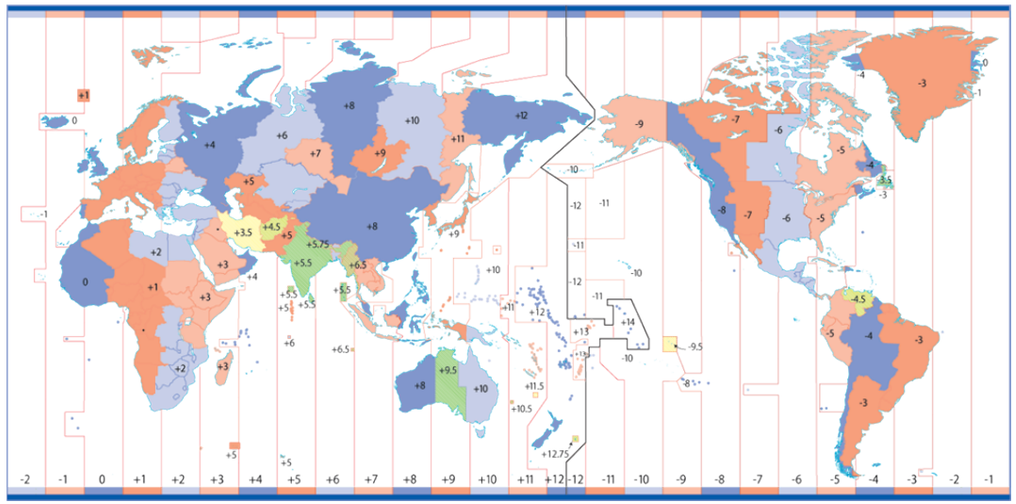
※このGPSソーラーウオッチはナビゲーション用機器とは異なり、普段お使いになっているときに常にGPS衛星の電波を受信する仕様ではありません。
GPS衛星の電波の受信を行うのは、タイムゾーン修正、強制または自動時刻修正等を行うときのみです。

目次

タイムゾーンについて

タイムゾーン

世界各地には協定世界時（UTC）を基準にして、その国や地域で共通して使用する標準時があります。標準時は国や地域により決められており、同じ標準時を使う地域全体をタイムゾーンと言い、現在39のタイムゾーンに分かれています。
さらに国や地域によっては、個別に【サマータイム（DST）】が設定されています。



※各地域のタイムゾーンは、国または地域の都合により変更される場合があります。

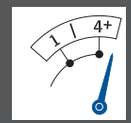
協定世界時（UTC）

Coordinated Universal Time ＝ コーディネイテッド ユニバーサルタイム
UTCは国際協定により定められた世界共通の標準時です。全世界で時刻を記録する際に公式な時刻として使われています。天文学的に定められた世界時（UT）とのずれを補正するため、世界中にある原子時計を元に決められた「国際原子時（TAI）」にうるう秒を加えて、調整をした時刻がUTCとなります。

※各地域のタイムゾーンについては、2012年1月時点でのデータに基づいております。
※これ以降にタイムゾーンが変更になった地域については、反映することができませんので、予めご了承ください。

GPS電波受信について

GPS電波受信には３種類あります。それぞれの特長は以下のとおりです。

受信方法	時刻修正	タイムゾーン修正	うるう秒情報受信
表示	強制時刻修正 → P.21～22 自動時刻修正 → P.23	タイムゾーン修正 → P.14～16	
特長	**時刻修正** 設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻を表示 ※設定されているタイムゾーンを確認する → P.16	**タイムゾーンの特定と時刻修正** 今いる場所のタイムゾーンを特定し、正確な現在時刻を表示	**うるう秒受信** うるう秒情報受信待機中及びうるう秒情報受信中 → P.30
受信に必要な衛星の数	1基（時刻情報のみを取得するため）	基本4基以上（時刻情報、タイムゾーンの情報を取得するため）	――
受信にかかる時間	6秒～1分	30秒～2分	最長18分
どういうときに	タイムゾーンが変わらない地域で使っていて正確な時刻に合わせたいとき	タイムゾーンの違う地域に行ったとき	6月または12月頃にタイムゾーン修正または時刻修正を行った後、自動的にこの表示になる

GPS電波受信　Q&A

Q：タイムゾーンの違う地域に移動したときは、自動的に現地の時刻になりますか？
A：移動しただけでは現地の時刻になりません。
GPS電波が受信しやすい場所にいるときはタイムゾーン修正をしてください。自動的に現地の時刻を表示します。
GPS電波が受信できない場所にいるときは手動タイムゾーン選択をしてください。
→手動タイムゾーン選択について　P.20
（世界の全39のタイムゾーンに合わせることができます。）

Q：サマータイム（DST）はGPS電波受信をすることで自動的に変わりますか？
A：サマータイム（DST）の設定は手動で行ってください。
→ サマータイム（DST）を設定する　P.17～18
（GPS衛星からの電波にはサマータイム（DST）の情報が含まれていません。）
同じタイムゾーンの中でも、サマータイム（DST）を採用していない国や地域があります。
→ サマータイム（DST）について　P.17

Q：うるう秒が挿入される年は、特別な操作が必要ですか？
A：特別な操作は必要ありません。
6月または12月頃にGPS電波受信と同時にうるう秒情報の受信を行うため、定期的にGPS電波を受信をすることで自動的にうるう秒が挿入されます。詳しくは「うるう秒について（うるう秒自動受信機能）　P.30」を確認してください。

うるう秒について（うるう秒自動受信機能）

うるう秒について

うるう秒は天文学的に決められた世界時（UT）と国際原子時（TAI）とのずれを補正するためのものです。
毎年～数年に１度、「１秒」挿入（削除）されることがあります。

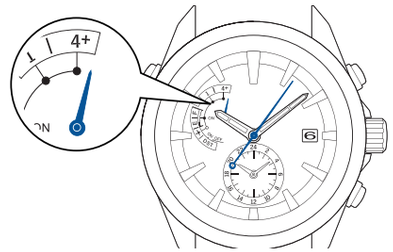
うるう秒自動受信機能について

「うるう秒情報」をGPS電波から受信することにより、うるう秒の実施時刻になったときに、自動的にうるう秒が挿入されます。

※「うるう秒情報」には、今後のうるう秒実施の有無の情報と、現在のうるう秒情報が含まれています。

うるう秒情報の受信について

<うるう秒情報受信待機中>



６月または１２月頃にGPS電波受信（タイムゾーン修正または時刻修正）を行うと、インジケータ針が右のような表示になります。（うるう秒情報受信待機中及びうるう秒情報受信中の表示）この時、秒針は0～18秒のいずれかを指し、うるう秒情報受信までの待機時間を分単位で表します。１分ごとに減算していき、秒針が0秒になると、うるう秒情報の受信がはじまります。受信しやすい場所に行くことをおすすめします。

→受信しやすい場所・受信できない場所　P.13

※秒針の位置はうるう秒情報の受信が開始するまでの目安になります。
（６秒位置にあるときは約６分後に受信が開始されるという意味です。）
※このとき秒針は１秒毎に動いていませんが、故障ではありません。

うるう秒情報受信中は強制時刻修正と同じ針の動きをします。　→強制時刻修正のしかた　P.21～22

うるう秒情報の受信が終了すると受信結果を表示後、秒針が１秒ごとに動き出します。
インジケータ針もエネルギー残量表示に戻りますので、そのままお使いください。

※うるう秒情報の受信は、うるう秒の実施に関わらず半年ごとに行います。

以下の状況でGPS電波受信をしたときも、うるう秒情報の受信をはじめます。
・システムリセットをした後にGPS電波受信をしたとき
・長期間、GPS電波受信をしなかったとき
・うるう秒情報の受信に失敗したとき
（次のGPS電波受信で再度うるう秒情報の受信を行います。うるう秒情報の受信が成功するまで行います。）

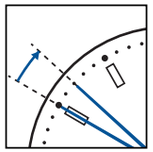
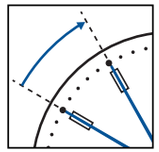
秒針の動きと時計の状態（エネルギー切れ予告機能）

秒針の動きから、時計の状態（はたらいている機能）がわかります。

２秒運針・５秒運針になっている

エネルギー残量が少ないと、エネルギー切れ予告機能がはたらきます。
エネルギーが不足しているときは光をあてて充電をしてください。 →充電のしかた P.11

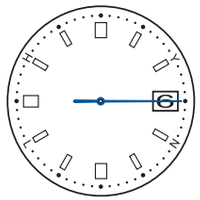
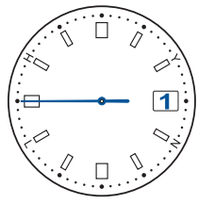
※ エネルギー切れ予告機能がはたらいているときは、ボタン・りゅうずを操作しても作動しません。
（故障ではありませんので、ご安心ください。）

	２秒運針	５秒運針
状況	秒針が２秒ごとに運針している 	秒針が５秒ごとに運針している 
機能・表示の制限	・GPS電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 ・自動時刻修正がはたらかない。	・時針・分針・日付・小時計が停止 ・GPS電波受信の操作をしても受信がはじまらない。 ・自動時刻修正がはたらかない。
このようにしてください	①まずは１秒運針になるまで光をあてて充電を行ってください。 →充電のしかた P.11 ②インジケータ針が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるまで充電をすることを心がけてください。（インジケータ針が「E」を指しているときはGPS電波受信ができません。 →エネルギー残量を確認する P.10	①インジケータ針が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるまで充電をしてください。 →エネルギー残量を確認する P.10 ②タイムゾーン修正をして、時刻を合わせてください。 →タイムゾーン修正のしかた P.14～16

次のページに続く

■ 秒針が15秒位置・45秒位置で停止している（パワーセーブ機能）

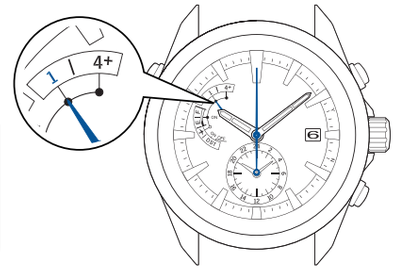
光があたらない状態が続くと、パワーセーブ（節電）機能がはたらきます。

	パワーセーブ1	パワーセーブ2
状況	秒針が15秒の位置で停止 	秒針が45秒の位置で停止 
機能・表示の制限	・時分針・日付・小時計が停止。 ・自動時刻修正は行わない。	・時分針・日付・小時計が停止。 （日付は「1」になる） ・GPS電波受信の操作をしても受信ははじまらない。 ・自動時刻修正は行わない。 ・インジケータ針がEを指している。
原因	光があたらない状態が72時間以上続いた	充電不足の状態が長く続いた
対処のしかた	・5秒以上光をあてる、またはいずれかのボタンを押すと針が早送りされて現在時刻に戻ります	①インジケータ針が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるまで充電をしてください。 → P.10～11 ②タイムゾーン修正をして、時刻を合わせてください。 → P.14～16

パワーセーブ2について
※ 充電をした場合、充電中は【5秒運針】になります。【5秒運針】の間はボタン・りゅうずとも操作できません。
※ 長時間続くと、エネルギー残量の低下により、内部で記憶されていた現在時刻の情報が失われます。

■ 秒針が0秒または5秒位置で停止している（自動時刻修正）

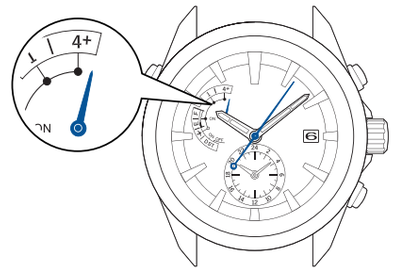
自動時刻修正を行っています。
→自動時刻修正について P.23
インジケータ針は「1」を指しています。



受信が終わるまで最長1分かかります。
「受信しやすい場所 P.13」を心がけてお使いください。

■ 秒針が0秒～18秒の位置で停止している（うるう秒情報受信待機中）

うるう秒情報を受信待機中の表示です。
この時、秒針は0～18秒のいずれかを指し、うるう秒情報受信までの待機時間を分単位で表します。
1分ごとに減算していき、秒針が0秒になると、うるう秒情報の受信がはじまります。受信しやすい場所に行くことをおすすめします。
→受信しやすい場所・受信できない場所 P.13



※秒針の位置は、うるう秒情報の受信が開始するまでのめやすになります。
（6秒位置にあるときは、あと6分後に受信が開始するという意味です。）
※秒針が1秒毎に動いていませんが、故障ではありません。
→うるう秒自動受信機能 P.30

うるう秒情報受信待機中の表示は最長18分続き、その後うるう秒情報の受信をはじめます。
受信中は強制時刻修正と同じ針の動きをします。 →強制時刻修正のしかた P.21～22

うるう秒情報の受信が終了すると、秒針が1秒ごとに動きます。
そのままお使いください。
※うるう秒情報の受信は、うるう秒の実施に関わらず半年ごとに行います。

お手入れについて

●日ごろからこまめにお手入れしてください

- りゅうずを引き出して洗わないでください。
- 水分や汗、汚れはこまめに柔らかい布でふき取るように心がけてください。
- 海水につけた後は、必ず真水でよく洗ってからふき取ってください。
  その際、直接蛇口から水をかけることは避け、容器に水をためるなどしてから洗ってください。
  ※「非防水」、「日常生活用防水」の場合は、おやめください。
  → 性能と型式について P.33　防水性能について P.35

●りゅうずは時々回してください

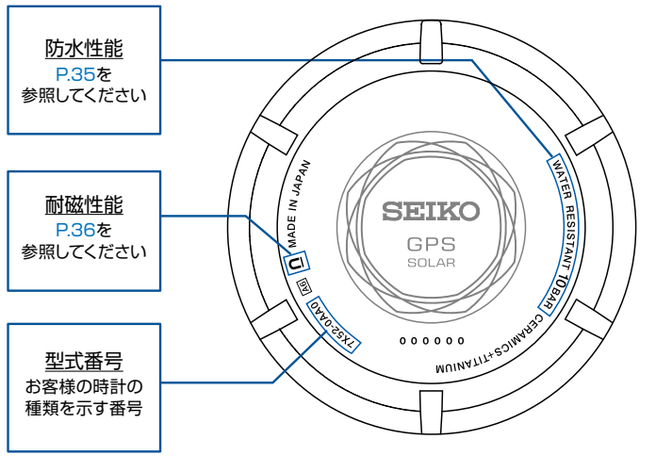
- りゅうずのさびつきを防止するために、時々りゅうずを回してください。
- ねじロック式りゅうずの場合も同様です。 → ねじロック式りゅうずについて P.34

●ボタンは時々押してください

- ボタンのさびつきを防止するため、時々ボタンを押してください。
  ※ ボタンを押すことで表示が変わった場合は、そのままお待ちください。

性能と型式について

時計の裏ぶたで性能と型式の確認ができます。



※ 上の図は例であり、お買い上げいただいた時計とは異なる場合があります。

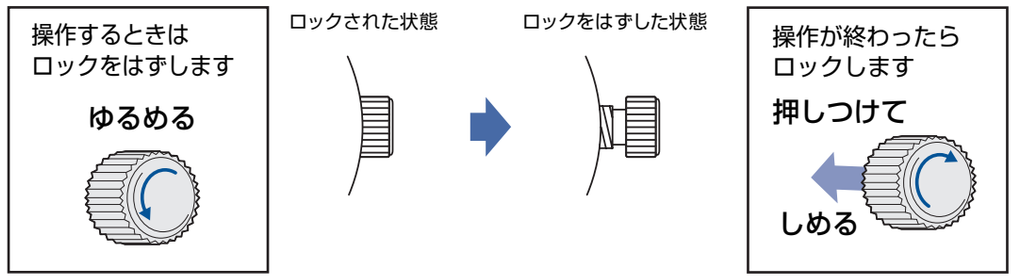
ねじロック式りゅうずについて

誤動作の防止と防水性の向上のために、使わないときにりゅうずをねじでロックできる構造です。

●りゅうずを操作するときはロックをはずしてください
●操作が終わったらロックをしてください

【ロックのはずしかた】
りゅうずを左(下方向)に回してください。
ねじがゆるんで、りゅうずが操作できるようになります。

【ロックのしかた】
りゅうずを時計本体に軽く押しつけながら、右(上方向)に止まるところまで回してください。



※ ロックをするときは、ねじのかみあい具合に注意してゆっくりと押しながら回してください。無理に押し込むと、ねじ部(ケース)を壊す恐れがありますのでご注意ください。

防水性能について

お買い上げいただいた時計の防水性能を下記の表でご確認の上ご使用ください。

裏ぶた表示	防水性能	お取扱方法	
防水性能表示なし	非防水です。	水滴がかかったり、汗を多くかく場合には、使用しないで下さい。	
WATER RESISTANT	日常生活用防水です。	日常生活での「水がかかる」程度の環境であれば使用できます。	⚠ 警告　水泳には使用しないで下さい。
WATER RESISTANT 5 BAR	日常生活用強化防水で５気圧防水です。	水泳などのスポーツに使用できます。	
WATER RESISTANT 10(20)BAR	日常生活用強化防水で 10（20）気圧防水です。	空気ボンベを使用しないスキンダイビングに使用できます。	

耐磁性能について（磁気の影響）

この時計は、身近にある磁気の影響を受け、時刻が狂ったり止まったりします。

※ この時計は、磁気により時刻が狂っても、「針位置自動修正機能」によって自動的に針位置を修正します。(P.50)

この時計はJIS1種相当の耐磁性能があります。

⚠注意

磁気製品より、5cm以上遠ざけてご使用ください。

磁気を帯びたことが原因で、携帯使用時の精度めやす範囲を超えている場合、磁気の除去および精度の再調整作業は、保証期間にかかわらず有料とさせていただきます。

この時計が磁気の影響を受ける理由

内蔵されているモーターは磁石を使用しており、外からの強い磁気の影響を受けます。

時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例

スマートフォン・携帯電話・
タブレット端末（スピーカー部）

ACアダプター

バッグ
（磁石の止め金）

交流電気かみそり

電磁調理器

携帯ラジオ
（スピーカー部）

磁気ネックレス

磁気健康枕

バンドについて

**バンドは直接肌に触れ、汗やほこりで汚れます。そのため、お手入れが悪いと
バンドが早く傷んだり、肌のかぶれ・そで口の汚れなどの原因になります。
長くお使いになるためには、こまめなお手入れが必要です。**

●金属バンド

- ステンレスバンドも水や汗・汚れをそのままにしておくと、さびやすくなります。
- 手入れが悪いと、かぶれやワイシャツのそで口が黄色や金色に汚れる原因になります。
- 水や汗・汚れは、早めに柔らかな布でふき取ってください。
- バンドのすき間の汚れは、水で洗い、柔らかな歯ブラシなどで取り除いてください。
  （時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護してください。）
  残った水分は柔らかな布でふき取ってください。
- チタンバンドでも、ピン類には強度に優れたステンレスが使用されているものがあり、ステンレスからさびが発生することがあります。
- さびが進行すると、ピンの飛び出しや抜けが発生し、時計を脱落させてしまうことがあります。また、逆に中留が外れなくなることがあります。
- 万が一、ピンが飛び出している場合は、けがをするおそれがありますので、ただちに使用をやめて修理をご依頼ください。

●皮革バンド

- 水や汗、直射日光に弱く、色落ちや劣化の原因になります。
- 水がかかったときや汗をかいた後は、すぐに乾いた布などで、吸い取るように軽くふいてください。
- 直接日光にあたる場所には放置しないでください。
- 色の薄いバンドは、汚れが目立ちやすいので、ご使用の際はご注意ください。
- 時計本体が日常生活用強化防水10(20)気圧防水になっているものでも、アクアフリーバンド以外の皮革バンドは、水泳・水仕事などでのご使用はお控えください。

●ポリウレタンバンド

- 光で色があせたり、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。
- 特に半透明や白色・淡い色のバンドは、他の色を吸着しやすく、また変色をおこします。
- 汚れたら水で洗い、乾いた布でよくふき取ってください。
  （時計本体は水にぬれないように、台所用ラップなどで保護してください。）
- 弾力性がなくなったら取り換えてください。そのまま使い続けるとひび割れが生じバンドが切れやすくなります。

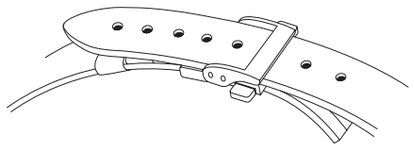
●シリコンバンド

- 材料の特性上、バンドに汚れがつきやすく、しみこんだりして、変色を生じることがあります。汚れた場合は、ぬれた布やウェットクリーニングティッシュ等ですぐにふきとってください。
- 他の材料に比べ、亀裂が生じた場合そこから切れてしまう恐れがあります。先の鋭い刃物などで傷つけない様、ご注意ください。

かぶれやアレルギーについて	バンドによるかぶれは、金属や皮革が原因となるアレルギー反応や、汚れ、もしくはバンドとのすれなどの不快感が原因となる場合など、いろいろな発生原因があります。
バンドサイズのめやすについて	バンドは多少余裕をもたせ、通気性をよくしてご使用ください。 時計をつけた状態で、指一本入る程度が適当です。

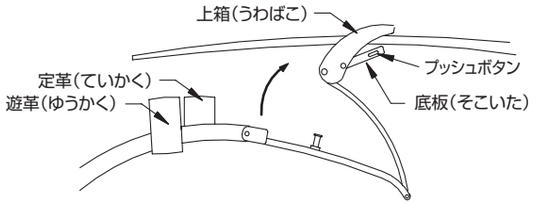
三つ折れ式中留（なかどめ）の使いかた

バンドには、調整可能な三つ折れ式中留を用いたものがあります。
お買い上げの時計の中留が、図のような中留のときは下記の操作方法を参照してください。

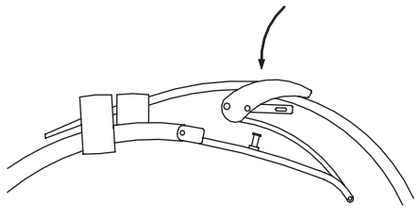


・着脱のしかた

1 プッシュボタンを両側から押しながらバンドを定革・遊革から抜いて、中留を開きます。

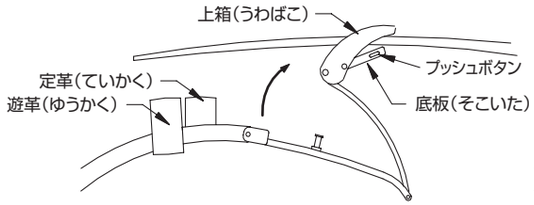


2 バンドの剣先（先端）を定革・遊革に入れてから、上箱を上からしっかり押さえて留めます。

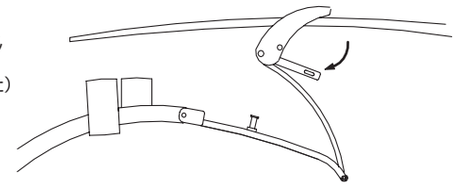


・バンドの長さを調節するには

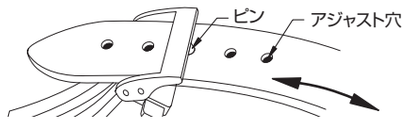
1 プッシュボタンを両側から押しながらバンドを定革・遊革から抜いて、中留を開きます。



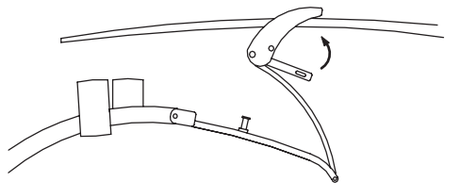
2 もう一度プッシュボタンを押し、底板を下に開きます。



3 ピンをアジャスト穴から外します。バンドを左右にスライドさせ、適切な長さのところで、ピンをアジャスト穴に入れます。



4 底板を閉めます。



※上の図は例であり、お買い上げいただいた時計の仕様とは異なる場合があります。

ルミブライトについて

お買い上げの時計がルミブライトつきの場合

ルミブライトは、太陽光や照明のあかりを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3時間～5時間)発光します。光が当たらなくなってから輝度(明るさ)は、時間の経過とともに弱まります。なお、光を蓄える際の光の強さや光の吸収度合いとルミブライトの面積によって、発光する時間や見え方に差が生じます。

※ 一般的には明るい所から暗い所へ入った場合、人の目はすぐには順応しません。初めはものが見にくいですが、時間の経過と共に見やすくなってきます。(目の暗順応)
※ ルミブライトは、放射能などの有害物質をまったく含んでいない環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)塗料です。

＜照度のめやすについて＞

環　境		明るさ(照度)のめやす
太陽光	晴れ	100,000ルクス
	くもり	10,000ルクス
屋内(昼間窓際)	晴れ	3,000ルクス以上
	くもり	1,000～3,000ルクス
	雨	1,000ルクス以下
照明 (白色蛍光灯40Wの下で)	1m	1,000ルクス
	3m	500ルクス(通常室内レベル)
	4m	250ルクス

使用電源について

この時計には、一般の酸化銀電池とは異なる専用の二次電池を使用しています。
二次電池とは、乾電池やボタン電池のような使い捨ての電池とは異なり、充電と放電をしながら繰り返し使用可能な電池です。

長期的な使用や使用環境により、容量や充電効率が少しずつ低下する場合があります。
また、長期間使用すると、機械部品の磨耗や汚れ、潤滑油の劣化等によって持続時間が短くなる場合があります。性能が低下し始めたら修理にお出しください。

⚠警告

二次電池交換時のご注意

- 二次電池は取り出さないでください。
  二次電池の交換には専門知識・技能が必要ですので、お買い上げ店にご依頼ください。
- 一般の酸化銀電池が組み込まれると、破裂、発熱、発火などのおそれがあります。

※ 過充電防止機能

フル充電までの所要時間を超えて充電しても、時計が破損することはありません。
二次電池がフル充電になると、それ以上充電されないように、自動的に過充電防止機能がはたらきます。

※ フル充電までの所要時間については「充電にかかる時間のめやす　P.11」を参照してください。

⚠警告

充電時のご注意

- 充電の際、撮影用ライト、スポットライト、白熱ライト（球）などに、近づけ過ぎると、時計が高温になり内部の部品等が損傷を受けるおそれがありますのでおやめください。
- 太陽光にて充電する際も、車のダッシュボード等では、かなりの高温となり故障の原因となる場合がありますので、おやめください。
- 時計が60℃以上にならないようにしてください。

※ 長期間充電されない状態が続いたとき

長期間充電されない状態が続くと、完全に放電してしまい、充電できなくなってしまうことがあります。その場合はお買い上げ店にご相談ください。

アフターサービスについて

●保証と修理について

・修理や点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際は、お買い上げ店、または弊社お客様相談窓口にご依頼ください。
・保証期間内に不具合が生じた場合は、必ず保証書を添えてお買い上げ店へお持ちください。
・保証内容は保証書に記載したとおりです。
保証書をよくお読みいただき、大切に保管してください。
・保証期間終了後については、修理によって機能が維持できる場合には、ご要望により有料修理させていただきます。

●補修用性能部品について

・この時計の補修用性能部品の保有期間は、通常７年を基準としています。補修用性能部品とは、時計の機能を維持するために必要な修理用部品です。
・修理の際、外観の異なる代替部品を使用させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

●点検調整のための分解掃除（オーバーホール）について

・長くご愛用いただくために、3年～４年に１度程度の点検調整のための分解掃除（オーバーホール）をおすすめします。ご使用状況によっては、機械の保油状態が損なわれたり、油の汚れなどによって部品が磨耗し、止まりにいたることがあります。またパッキンなどの部品の劣化が進み、汗や水分の浸入などで防水性能が損なわれる場合があります。
点検調整のための分解掃除（オーバーホール）は、「純正部品」とご指定の上、お買い上げ店にご依頼ください。その際、パッキンやばね棒の交換もあわせてご依頼ください。
・点検調整のための分解掃除（オーバーホール）の際には、ムーブメント交換となる場合もあります。

GPS電波の受信ができないとき

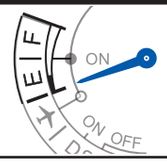
■ 確認していただきたいこと

GPS電波受信の操作をしても受信がはじまらない、受信ができないときは、以下のことが考えられます。

●GPS電波受信(タイムゾーン修正・強制時刻修正)の操作をしても受信がはじまらない

・インジケータ針の位置を確認してください。

受信できない状態

インジケータ表示	エネルギー残量表示	機内モード(✈)
	E(少ない)	
表　示		
このようにしてください	光をあてて(P.11)、「水平位置(中くらい)」または「F(十分)」になるまで充電してください。	機内モード(✈)を解除してください。 → P.19

●GPS電波受信(タイムゾーン修正・強制時刻修正)の操作をしても、受信ができない(受信結果表示が「N」になる。)

・受信しやすい場所でGPS電波受信をしてください。
　→ 受信しやすい場所・受信できない場所　P.13

●受信終了前に秒針が45秒位置で停止する(パワーセーブ2の状態になる)

・充電容量や充電効率が低下した状態のときに低温下(0℃以下)でGPS電波受信を行うと、受信を中止し、パワーセーブ2の状態になることがあります。
このような現象がたびたび起こるようであれば、お買い上げ店にご相談ください。
GPS電波受信にはたくさんのエネルギーを消費します。こまめに光を当て充電をすることを心がけてください　→　充電のしかた　P.11

電波が受信できない環境で時刻を合わせる(手動時刻・日付合わせについて)

■ 手動時刻・日付合わせについて

「■ 確認していただきたいこと」を行っても問題が解決しないときや、電波が受信できない環境で時刻がずれてしまい、その後も受信ができない状況が続く場合は手動で時刻・日付を合わせてください。

次のページに続く

手動時刻合わせのしかた

・再び受信可能な環境で使うときは、電波を受信して時刻を合わせてください。
・　時刻を修正するときは、日付が連動して動きます。

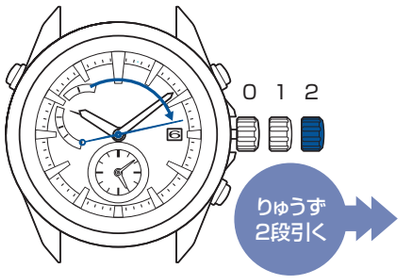
1 りゅうずのロックをはずす

りゅうずのロックをはずす。

→ねじロック式りゅうずについて　P.34

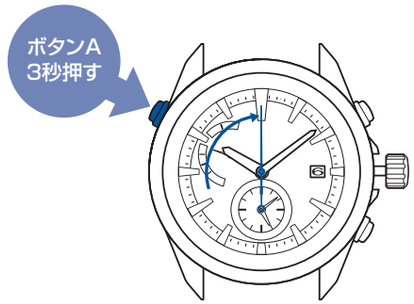
2 りゅうずを２段引く

秒針が１３秒位置に移動し、停止します。



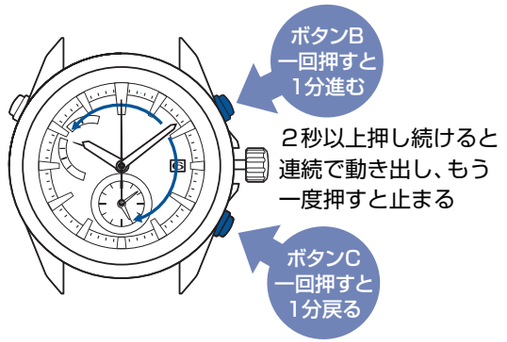
3 ボタンＡを押し続けて（３秒）針が０秒位置に移動したら離す

秒針が０秒位置に移動し、停止します。
手動時刻合わせのモードに入ります。



※手動時刻合わせのモードに入ると、電波受信結果のデータが失われるため、受信結果を確認しても「N」と表示されます。

4 ボタンＢまたはボタンＣを押して時刻を合わせる

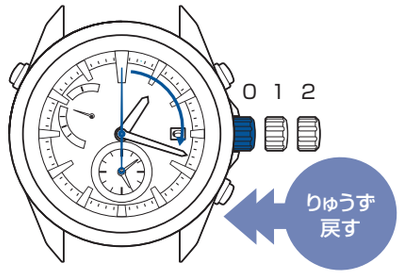


※りゅうずを回しても針は動きません。

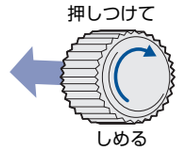
※日付が変わるところが午前０時（午後１２時）です。
午前・午後に注意して時刻を合わせてください。

5 時報などに合わせてりゅうずを押し戻す

操作は完了です。
時計が動きはじめます。



※りゅうずをロックしてください



※ 電波が受信できない場合でも、通常のクオーツ時計と同じ精度でお使いいただけます。（平均月差±15秒）
※ 手動時刻合わせの後で電波を受信したときは、受信した時刻を表示します。

手動日付合わせのしかた

GPS電波が受信できない環境で、自動で日付が変わらない場合（小の月から大の月に変わる際など）は、手動で日付を合わせてください。

・日付は、時刻に関係なく単独で合わせることができます。

・再び受信可能な環境で使うときは、GPS電波を受信して時刻・日付を合わせてください。
→ タイムゾーン修正のしかた　P.14～16

※GPS電波の受信に成功しても日付が合わないときは、日付の基準位置がずれていると考えられます。
→ 日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる　P.45～47

1 りゅうずのロックをはずす

りゅうずのロックをはずす。

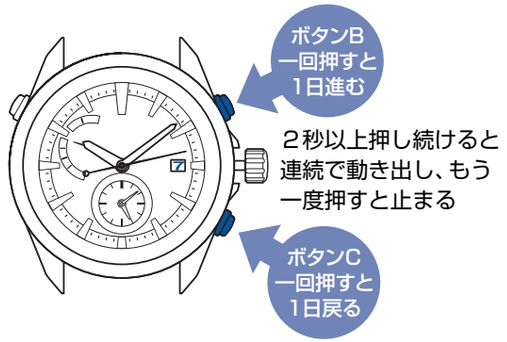
→ねじロック式りゅうずについて　P.34

ゆるめる

2 りゅうずを2段引く

秒針が13秒位置に移動し、停止します。

3 ボタンBまたはボタンCを押して日付を合わせる



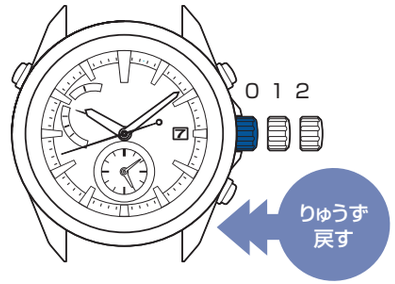
※手動日付合わせのモードに入ると、電波受信結果のデータが失われるため、受信結果を確認しても「N」と表示されます。

※りゅうずを回しても日付は動きません。

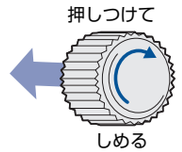
※日付が動いている間はボタンの操作はできません。

4 りゅうずを押し戻す

操作は完了です。



※りゅうずをロックしてください



時刻・日付、インジケータ針の位置がずれているとき

確認していただきたいこと

●受信はできている（受信結果表示は「Y」になる）が、時刻がずれている

・タイムゾーンの設定を確認してください。
→　タイムゾーンの設定を確認する　P.16
タイムゾーンが今いる場所と違うときは、いずれかの操作でタイムゾーンを合わせてください。
受信がしやすい場所にいるとき　→ タイムゾーン修正のしかた　P.14～16
受信ができない場所にいるとき　→ 手動タイムゾーン選択のしかた　P.20

・サマータイム（DST）の設定を確認してください。
→　サマータイム（DST）の設定を確認する　P.17
サマータイム（DST）の設定と今いる場所のサマータイム（DST）の実施状況が合っていないときは、「サマータイム（DST）の設定をする　P.18」で合わせてください。

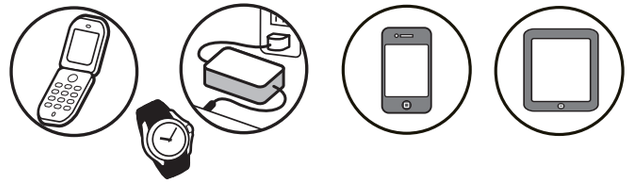
・自動時刻修正が数日間はたらいていない可能性があります。
→自動時刻修正について　P.23
エネルギー残量が少なかったり環境によっては自動時刻修正がはたらきにくいことがあります。
すぐに時刻を合わせたいときは「タイムゾーン修正のしかた　P.14～16」で時刻を合わせてください。

基準位置について

電波の受信に成功しても時刻・日付が合わないときや、インジケータ針の指す位置がずれているときは、基準位置がずれていることが考えられます。

基準位置がずれる理由は、以下の原因が考えられます。

落とす、強くぶつけるなどの強い衝撃


磁気を発するものによる影響
→ 時計に影響を及ぼす身の周りの磁気製品例　P.36

【針の基準位置がずれている】状態とは、体重計に例えると「メーターのゼロ位置が合っていないために、正しい体重が表示できない」ということです。

時・分・秒針の基準位置合わせ（針位置自動修正機能）

時分秒針には、基準位置がずれたときに自動的に修正する「針位置自動修正機能」があります。
針位置自動修正機能がはたらくのは、時分針は12時間に1回（午前・午後12時）、秒針は1分に1回です。

※ この機能は、衝撃や磁気による影響（外的要因）で、針がずれてしまったときにはたらきます。
　時計の精度や製造上の微細なずれを修正する機能ではありません。
※ 時分針の基準位置は手動でも修正することができます。 → 日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる　P.46～47

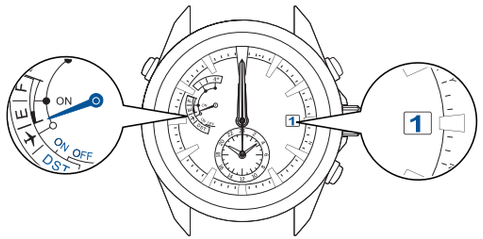
日付・インジケータ針の基準位置合わせ

日付・インジケータ針の基準位置は自動では修正されないため、手動で合わせる必要があります。

→ 日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる　P.46～47

この時計の基準位置について

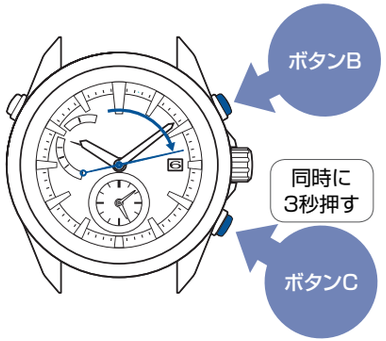
日付の基準位置は「１」(１日)です。
インジケータ針の基準位置は「E」(少ない)と✈の間です。
時分針の基準位置は「午前０時０分」です。



日付・インジケータ針・時分針の基準位置を合わせる

1 ボタンB･Cを同時に押し続けて(3秒) 秒針が13秒位置に移動したら離す

日付の基準位置合わせのモードに入ります。
日付が動き、基準位置で止まります。



※りゅうずは引き出さないでください。

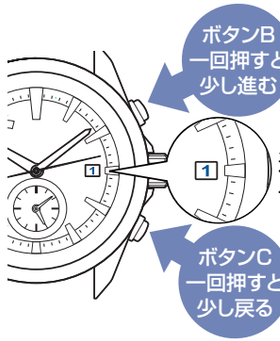
※日付が止まった状態が１分以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。
時刻表示に戻ったときは、操作をやりなおしてください。

※日付が動いている間は、ボタン操作はできません。

2 ボタンBまたはボタンCを押して、日付を「1」にする

「1」の数字が、日付窓の中心になるように合わせてください。

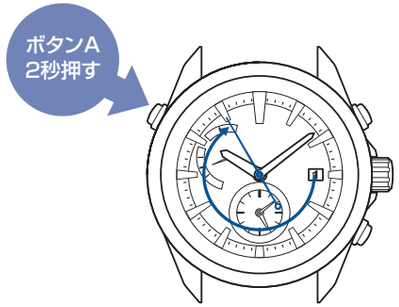
※「1」が表示されている場合は、③の操作へ



２秒以上押し続けると連続で動き出し、もう一度押すと止まる

3 ボタンAを押し続けて(2秒) 秒針が55秒位置に移動したら離す

インジケータ針の基準位置合わせのモードに入ります。



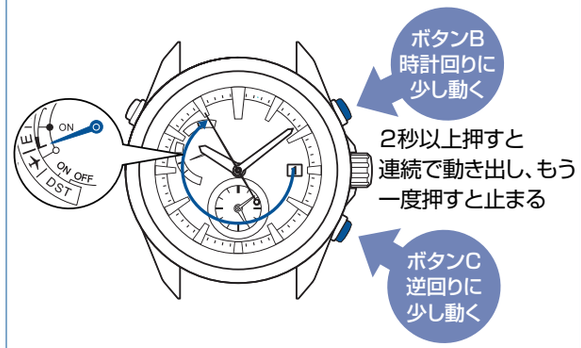
※操作のない状態が１分以上続いた、またボタンＡを１回押すと時刻表示に戻ります。
時刻表示に戻ったときは操作をやり直してください。

次のページに続く

4 ボタンBまたはボタンCを押して インジケータ針を図のように合わせる

インジケータ針を図の位置に合わせてください。

※図のようになっている場合は⑤の操作へ

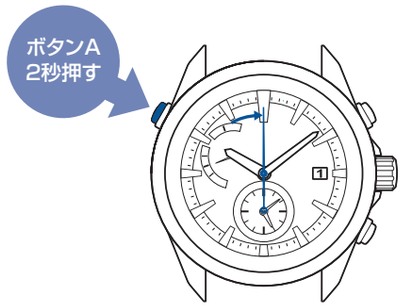


※インジケータ針は１周しますが異常ではありません。

5 ボタンAを押し続けて（2秒） 秒針が0秒位置に移動したら離す

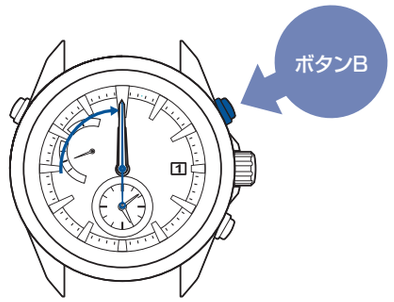
時分針の基準位置合わせのモードに入ります。

※正しい時刻が表示されている場合は⑦の操作へ



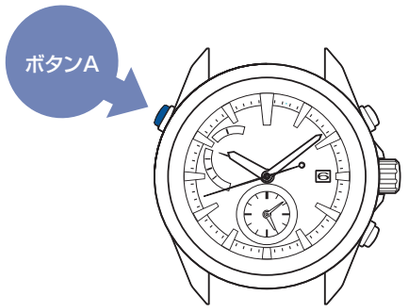
6 ボタンBを１回押して離す

時分針が動き、
「午前0時0分」に停止します。



7 操作が終了したら ボタンAを押して離す

基準位置合わせのモードが終了し、
秒針と時分針が動き始めます。



※操作のない状態が１分以上続いた、またボタンAを１回押すと時刻表示に戻ります。
時刻表示に戻ったときは操作をやり直してください。

万が一、異常な動きになったとき（システムリセットをする）

万が一、異常な動きになったとき、
または十分な充電を行なっても
１秒運針にならないときは、
①〜⑨の操作を行うことで
正常に機能するようになります。

システムリセットをすることで、
トラブル発生時に時計を初期状態に戻すことができます。（②〜④）

その後、日付とインジケータ針の基準位置合わせ（⑤〜⑨）、時刻合わせ（⑩）をし、お使いください。

システムリセットをする（②〜④）

1 りゅうずのロックをはずす

りゅうずのロックをはずす。

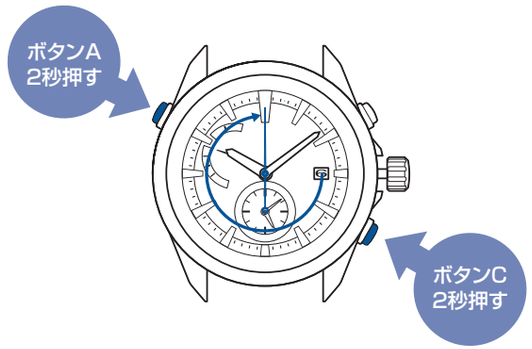
→ねじロック式りゅうずについて P.34

2 りゅうずを２段引く

秒針が１３秒位置で停止します。

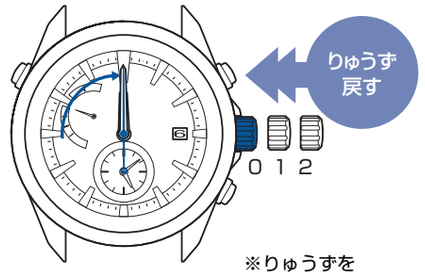
3 ボタンA・Cを同時に２秒押し続け、離す

ボタンを離すと秒針が１回転し
０秒位置に停止します。
その後、時分針が動き０時０分に停止します。

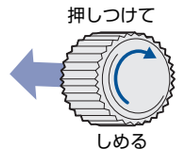


4 ０時０分０秒に停止したらりゅうずを戻す

０時０分０秒から秒針が動きます。



※りゅうずをロックしてください
→ P.34



※システムリセット後はタイムゾーンがUTC/LONになります。

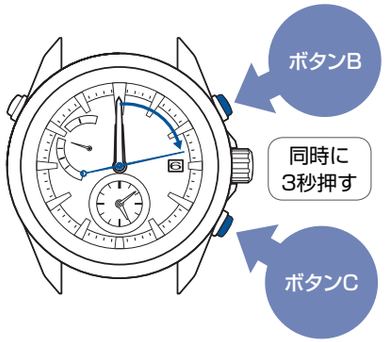
次のページに続く

日付を「1」（1日）に合わせる（⑤、⑥）

※日付が止まった状態が1分以上続くと、自動的に時刻表示に戻ります。
時刻表示に戻ったときは、操作をやりなおしてください。

5 ボタンB・Cを同時に押し続けて（3秒）秒針が13秒位置に移動したら離す

日付の基準位置合わせのモードに入ります。



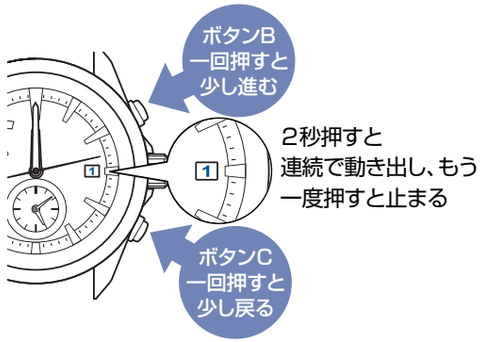
※りゅうずは引き出さないでください。

※日付が動いている間は、ボタン操作はできません。

6 ボタンBまたはボタンCを押して、日付を「1」にする

「1」の数字が、日付窓の中心になるように合わせてください。

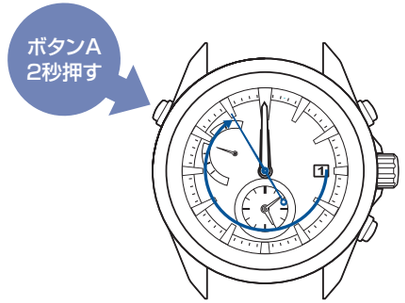
※「1」が表示されている場合は、⑦の操作へ



インジケータ針を「E」に合わせる（⑦〜⑨）

7 ボタンAを押し続けて（2秒）秒針が55秒位置に移動したら離す

インジケータ針の基準位置合わせのモードに入ります。



※操作のない状態が1分以上続いた、またボタンAを1回押すと時刻表示に戻ります。
時刻表示に戻ったときは操作をやり直してください。

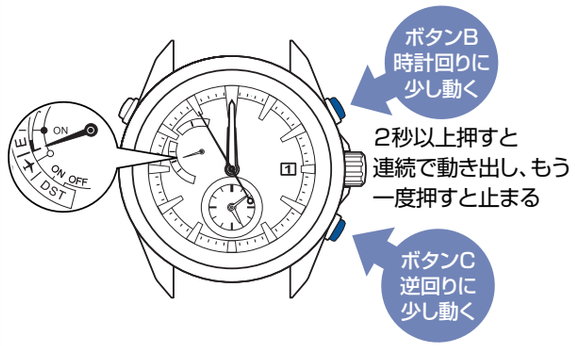
次のページに続く

■ 時刻を合わせる（⑩）

8 ボタンBまたはボタンCを押して インジケータ針を図のように合わせる

インジケータ針を図の位置に合わせてください。

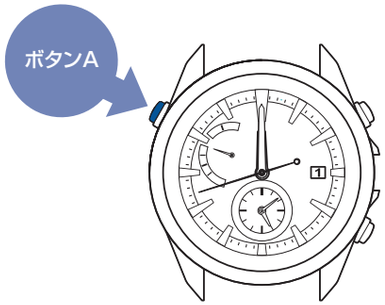
※図のようになっている場合は⑨の操作へ



※インジケータ針は１周しますが異常ではありません。

9 操作が終了したら ボタンAを押して離す

基準位置合わせのモードが終了し、
秒針と時分針が動き始めます。



10 電波を受信して時刻を合わせる

⑨までの操作が終了したら、
必ず時刻を合わせてください。

電波が受信しやすい場所(P.13)にいるときはタイムゾーン修正をしてください。
→ タイムゾーン修正のしかた P.14～16

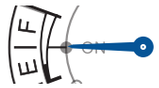
システムリセットをした後にGPS電波受信をすると、うるう秒情報も受信します。→ P.30

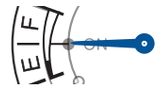
電波が受信できない環境にいるとき
①手動でタイムゾーン選択をする　→手動タイムゾーン選択のしかた　P.20
②手動で時刻を合わせる　→手動時刻合わせのしかた　P.43
③手動で日付を合わせる　→手動日付合わせのしかた　P.44

時刻・日付を合わせたら操作は終了です。

※操作のない状態が１分以上続いた、またボタンAを１回押すと時刻表示に戻ります。
時刻表示に戻ったときは操作をやり直してください。

こんなときは

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
針の動き	秒針が2秒ごとに運針している 秒針が5秒ごとに運針している	エネルギー切れ予告機能がはたらいている(P.31) 毎日身につけていて、この現象が起こる場合は、携帯中に時計が衣類の袖の中に隠れているなど、十分に光があたっていないことが考えられます。	秒針が1秒ごとに運針し、インジケータ針が「水平位置(中くらい)」または「F(十分)」を指すまで、十分な充電をしてください。  水平位置 (中くらい) 携帯中は、なるべく時計が袖などに隠れないように気をつけてください。 また、時計を外した際にもなるべく明るい場所に置くことを心がけてください。	P.10 P.11
	秒針が15秒位置で停止している状態から動きだした	パワーセーブ1がはたらいていた(P.32) 光があたらない状態が続いた場合、無駄なエネルギーの消費を抑えるパワーセーブ1がはたらきます。	光があたると、針が早送りされて現在時刻に戻ります。 現在時刻に戻ったら、そのままお使いください。(異常な動きではありません。)	–
	秒針が45秒位置で停止している状態から動きだした	パワーセーブ2がはたらいていた(P.32) 充電不足の状態が長く続いたときは、パワーセーブ2がはたらきます。	① インジケータ針が「水平位置(中くらい)」または「F(十分)」になるまで、充電をしてください。 ② その後、時刻が合っていない場合は、必要に応じてタイムゾーン修正をしてください。	P.10 P.11 P.14～16
	ボタン操作をしていないのに針が早送りされ、その後は1秒ごとに運針している	パワーセーブ機能がはたらいていた(P.32) 針位置自動修正機能がはたらいた。 外部からの影響などで針がずれた場合には、針位置自動修正機能がはたらいて自動的に針のずれを直します。	そのまま何もせずにお使いください。(異常な動きではありません。)	–
	秒針が0秒位置または5秒位置で停止している	自動時刻修正を行っている(P.23) インジケータ針は「1」を指しています。	受信が終わるまで最大1分かかります。 「受信しやすい場所P.13」を心がけてお使いください。	P.23
	秒針が0秒～18秒位置で停止している	うるう秒自動受信機能が働いている(P.30) インジケータ針は「4+」の右側を指しています。 	受信が終わるまで最大18分かかります。 「受信しやすい場所P.13」を心がけてお使いください。	P.30

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
GPS電波受信	タイムゾーン修正・強制時刻修正の操作をしても受信がはじまらない	エネルギー残量表示が「E(少ない)」になっている(P.10)	エネルギー残量表示が「水平位置（中くらい）」または「F（十分）」になるまで、十分な充電をしてください。  水平位置（中くらい）	P.11
		機内モード(✈)状態になっている(P.19)	電波の使用制限のある場所（飛行機内など）から移動したら、機内モード(✈)を解除してください。	P.19
	GPS電波受信をしても受信ができない。（受信結果表示が「N」になる）	受信できない場所にいる。(P.13)	受信しやすい場所で受信をしてください。	P.13
	受信はできている（受信結果表示が「Y」になる）が、時刻・日付がずれている（時刻修正の受信結果のとき）	今いる場所と異なるタイムゾーンが設定されている。	タイムゾーンの設定を確認してください。 タイムゾーンが今いる場所と違うときは、タイムゾーンを合わせてください。 ・受信しやすい場所にいるとき　→ タイムゾーン修正のしかた ・受信ができない場所にいるとき　→ 手動タイムゾーン選択のしかた	P.16 P.14～15 P.20
		サマータイム(DST)の設定と今いる場所のサマータイムの実施状況が合っていない。	サマータイムの設定を確認してください。	P.17
	受信結果表示が「Y」になるが、時刻・日付がずれている （タイムゾーン修正の受信結果のとき）	サマータイム(DST)の設定と今いる場所のサマータイムの実施状況が合っていない。	サマータイムの設定を確認してください。	P.17
		外部からの影響で針の位置がずれている。 針の基準位置がずれている。 → 基準位置について　P.45～46	① ＜時分針のずれ＞針位置自動修正機能がはたらいて、自動的に修正されます。何もせずにそのままお使いください。針位置自動修正機能は、秒針は1分に1回、時分針は午前・午後12時です。 ＜日付のずれ＞基準位置が自動では修正されないため、手動で合わせてください。 ② 針のずれが修正されない場合は、「万が一、異常な動きになったとき」を参照し、操作をしてください。 ③ ②の操作を行なっても、針のずれが修正されない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.46 P.48
	受信結果表示が「Y」になるが、1～2秒ずれている	自動時刻修正が数日はたらいていない	エネルギーが十分でないと自動時刻修正がはたらく間隔が3日に1日になることがあります。	P.23
	自動時刻修正が毎日はたらいていない	自動時刻修正がはたらく環境・条件になっていない	自動時刻修正がはたらくようになるには十分なエネルギーが必要です。強い光が当たることで自動的に時刻修正がはたらきます。	P.23

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
時刻、針のずれ	「受信結果表示」や「捕捉衛星数表示」を示す秒針の位置がずれている	秒針の基準位置がずれている。(外部からの影響などにより秒針の位置がずれているときに起こります。) → 基準位置について　P.45～46	① 針位置自動修正機能がはたらいて、自動的に修正されます。何もせずにそのままお使いください。針位置自動修正機能がはたらくのは、秒針は１分に１回です。 ② 針のずれが修正されない場合は、「万が一、異常な動きになったとき」を参照し、操作をしてください。 ③ ②の操作を行なっても、針のずれが修正されない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.43 P.48
	時計が一時的に進む、または遅れる	自動時刻修正が数日間はたらいていない(P.23)	エネルギーが十分でないと自動時刻修正がはたらく間隔が3日に1回になることがあります。 すぐに時刻を合わせたいときは「強制時刻修正」を行ってください。	P.23 P.14～16
		外部からの影響で間違った時刻を受信した。(誤受信)	① より受信しやすい場所で受信するようにしてください。 ② 必要に応じてタイムゾーン修正をしてください。	P.13 P.14～16
		時計を暑いところ、または寒いところに放置した。	① 常温に戻れば元の精度に戻ります。 ② その後、時刻が合っていない場合は、必要に応じて強制時刻修正をしてください。 ③ 元に戻らない場合は、お買い上げ店にご相談ください。	P.14～16
	１時間時刻が進んでいる (遅れている)	サマータイム(DST)がON(OFF)になっている。	サマータイム(DST)の設定を確認してください。	P.17

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
充　電	止まっていた時計を充電しても１秒運針にならない	あてる光が弱い。 充電時間が短い。	照度によって充電にかかる時間は変わります。 「充電にかかる時間のめやす」を参考に、充電を行なってください。	P.11
		時計内部のシステムが不安定になっている。	「万が一、異常な動きになったとき」を参照し、操作をしてください。	P.48
	フル充電までの時間（P.9）以上に充電しても秒針が停止している	長時間充電されない状態が続き、完全放電してしまった。	お買い上げ店にご相談ください。	－
日付のずれ	受信成功後、時刻は合っているが日付が合っていない	日付の基準位置がずれている。 外部からの影響やシステムリセットなどにより、日付の基準位置がずれているときに起こります。	日付の基準位置を正しい位置、「1」（1日）にしてください。	P.46
小時計のずれ	基本時計に合わせたが、時刻が合っていない	小時計は基準位置合わせがありません。 外部からの影響で時刻がずれているときに起こります。	小時計を合わせてください。	P.26
	GPS電波受信をしたのに小時計が現在時刻に合わない	小時計はGPS電波受信をしても時刻は変わりません。 基本時計とは独立して動いています。	P.26を参考に手動で合わせてください。	－

こんなときは		考えられる原因	このようにしてください	参照ページ
インジケータ針のずれ	受信種類、エネルギー残量、機内モード（✈）、DST表示の針の位置がずれている	うるう秒自動受信機能がはたらいている。 （秒針は0秒～18秒位置で停止しています。） 	うるう秒の受信が終わるまで最長18分かかります。 受信しやすい場所P.13を心がけてを心がけてお使いください。	P.30
		インジケータ針の基準位置がずれている。 外部からの影響やシステムリセットなどにより、 インジケータ針の基準位置がずれているときに起こります。	インジケータ針の基準位置を正しい位置に合わせてください。	P.46～47
操　作	ボタン、りゅうずが機能しない （操作しても動かない）	エネルギー残量が少なくなっている。	秒針が1秒ごとに運針するまで、十分な充電をしてください。	P.11
		設定の操作の直後で、日付が動いている途中である。	何もせず、そのままお待ちください。日付の動きが止まれば操作できるようになります。	–
	設定中に操作がわからなくなった	―――――――――――――	りゅうずが引き出されている場合 ① りゅうずを戻してください。 ② 最大9分で秒針が動きます。 ③ その後で、改めて操作をやりなおしてください。	–
			りゅうずが引き出されていない場合 ① ボタンAを押してください。 ② 最大2分で秒針が動きます。 ③ その後で、改めて操作をやりなおしてください。	–
その他	ガラスのくもりが消えない	パッキンの劣化などにより時計内部に水が入った。	お買い上げ店にご相談ください。	–

索　引

時刻を合わせるための機能

GPS 電波受信　→ P.29

タイムゾーン修正機能 ····· GPS衛星からの電波を受信して、ボタン操作ひとつで今いる場所のタイムゾーンを特定し、正確な現在時刻を表示します。
タイムゾーンの異なる地域に行ったときに使います。
→ P.14～16

強制時刻修正機能 ····· GPS衛星からの電波を受信して、設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻を表示します。
普段使っていて正確な時刻に合わせたいときに使います。
→ P.21～22

自動時刻修正機能 ····· GPS衛星からの電波の受信に適しているタイミングを時計の内部で判断し、自動的に電波の受信を始めます。
設定されているタイムゾーンの、正確な現在時刻を表示します。
→ P.23

手動タイムゾーン選択 ····· タイムゾーン修正ができない場所などで、手動でタイムゾーンを変更することができます。
→ P.20

サマータイム（DST）設定　手動でサマータイムを設定することができます。
→ P.17～18

充電に関する機能

ソーラー充電機能 ····· 文字板の下にあるソーラーセルで、光を電気エネルギーに換え、充電します。フル充電で約6ヶ月間動きつづけます。
→ P.11

エネルギー残量表示機能 ··· 電池残量を大まかに表示します。受信できるかどうかもわかります。
→ P.10

パワーセーブ機能 ····· 光があたらない状態が続いたときに、無駄なエネルギーの消費を抑えます。
→ P.32

受信に関する機能

機内モード（✈）・・・・・・・・・・ GPS電波受信がはたらかなくなる機能です。
飛行機に乗るときなどに設定します。
→ P.19

捕捉衛星数表示機能・・・・・・・ GPS電波受信中に、現在何基のGPS衛星から
受信しているかを秒針で表示します。
→ P.15

受信結果表示機能・・・・・・・・・ 最新の受信結果（成否）を表示します。
→ P.24

タイムゾーン設定確認機能　現在設定されているタイムゾーンを表示する機能です。
→ P.16

その他の機能

デュアルタイム表示・・・・・・・ 基本時計の時刻とは別の地域の時刻を6時位置にある
小時計（24時間表示）に表示します。
→ P.25

針位置自動修正機能・・・・・・・ 磁気など外部からの影響で針がずれた場合に、自動的に
ずれを直します。
→ P.52

うるう秒自動受信機能・・・・・ うるう秒の受信が必要なときに自動的に
うるう秒情報を受信します。
→ P.30

製品仕様

1. 基本機能・・・・・・・・・・・・基本時計3針（時・分・秒針）、日付表示、インジケータ針、
小時計2針（時・分針）
2. 水晶振動数・・・・・・・・・・32,768 Hz（Hz=1 秒間の振動数）
3. 精度・・・・・・・・・・・・・・・・平均月差 ±15秒以内（電波受信による時刻修正が行なわれない場合、
かつ気温5℃～35℃において腕に着けた場合）
4. 作動温度範囲・・・・・・・・−10℃～+60℃
5. 駆動方式・・・・・・・・・・・・ステップモーター式（基本時計の時分針、秒針、日付、インジケータ針、
小時計の時分針）
6. 使用電源・・・・・・・・・・・・専用二次電池：1個
7. 持続時間・・・・・・・・・・・・約 6 ヶ月（フル充電で、パワーセーブが作動しない場合）
※ フル充電をした状態からパワーセーブが作動した場合は最大約 2 年
8. GPS 電波受信機能・・・タイムゾーン修正、強制時刻修正、自動時刻修正
※ 受信から次の受信までは上記クオーツの精度で動く
9. 電子回路・・・・・・・・・・・・発振、分周、駆動、受信回路：IC 4 個

全国共通フリーダイヤル 0120-612-911
＜ ONLY IN JAPAN ＞

お客様相談室
〒100-0005　東京都千代田区丸の内 3-1-1 国際ビル
〒550-0013　大阪市西区新町 1-4-24 大阪四ツ橋新町ビルディング

セイコーウオッチ株式会社
本社　〒105-8467 東京都港区虎ノ門 2-8-10
http://www.seiko-watch.co.jp/

※仕様は改良のため予告なく変更することがあります。